【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成18年9月14日(2006.9.14)

【公開番号】特開2006-180556(P2006-180556A)
【公開日】平成18年7月6日(2006.7.6)
【年通号数】公開・登録公報2006-026
【出願番号】特願2006-73296(P2006-73296)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｑ　7/34　(2006.01)
Ｈ０４Ｂ　7/26　(2006.01)
Ｈ０４Ｑ　7/38　(2006.01)
Ｈ０４Ｍ　1/00　(2006.01)
Ｈ０４Ｍ　1/725　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｂ　7/26　１０６Ｂ
Ｈ０４Ｂ　7/26　１０６Ａ
Ｈ０４Ｂ　7/26　Ｍ
Ｈ０４Ｂ　7/26　１０９Ｔ
Ｈ０４Ｍ　1/00　Ｒ
Ｈ０４Ｍ　1/725

【手続補正書】
【提出日】平成18年7月27日(2006.7.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
通信回線に接続され、案内先に関する案内先データの記録、受信、送信、及び所定地域範囲の案内先に関する案内先データの統合管理を行うホストシステムと、
ＧＰＳ衛星からの電波を受信して、現在位置の座標を算出するＧＰＳユニットと、
上記ＧＰＳユニットが算出した現在位置の座標を記憶する現在位置メモリと、
上記現在位置メモリに記憶された現在位置の座標に基づいて、地図データを出力するナビゲーションソフトと、
道案内を行うための案内先に関する案内先データを格納する道案内データメモリと、
道案内に関する道案内処理画面の表示、及び該道案内処理画面への操作を検出する表示検出面と、
上記道案内処理画面に、道案内先名称を入力する画像を表示する道案内先名称の入力画面表示手段と、
上記道案内先名称の入力画面表示手段によって入力された道案内先名称、及び上記道案内データメモリに格納されている案内先データに基づいて、上記道案内先名称に関連する案内先データ、及び地図を上記表示検出面に表示する道案内の表示手段と、
上記道案内先名称の入力画面表示手段によって入力された道案内先名称に関する案内先データを、上記ホストシステムから受信して、上記道案内データメモリに格納する案内先データの受信手段と
を備える道案内に関するデータ及び地図の表示装置。
【請求項２】

上記表示検出面に、案内先のデータ収集に関する道案内データ収集画面を表示する道案内データ収集画面表示手段と、
上記道案内データ収集画面によって入力された案内先データを上記道案内データメモリに格納する道案内データメモリ格納手段と
を備えることを特徴とする請求項１に記載の道案内に関するデータ及び地図の表示装置。
【請求項３】
上記案内先データの受信手段は、上記道案内先名称の入力画面表示手段によって入力された道案内先名称に関する案内先データが上記道案内データメモリに格納されているかの検索を行って、該道案内先名称に関する案内先データが格納されていないとされた場合に、上記ホストシステムから上記道案内先名称に関する案内先データを受信することを特徴とする請求項１、又は請求項２に記載の道案内に関するデータ及び地図の表示装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【発明の詳細な説明】
【発明の名称】道案内に関するデータ及び地図の表示装置
【技術分野】
【０００１】
本発明は、道案内に関するデータ及び地図を表示する技術に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、警察官の活動を補佐するものとしては、携帯型無線通話装置や携帯用のコンピュータが用いられている。
携帯型無線通話装置は、警察官相互の通話や、指令室と警察官との通話に用いられるものであり、種々の情報の伝達や各種指令の伝達に用いられる。
【０００３】
携帯型コンピュータは、駐車違反者の摘発や反則切符の発行に用いられるものである。これは、前日までの違反者リストと、各種処理プログラムなどをメモリーカードに記憶しておいて、駐車違反の常習者や反則金の未納者の摘発を行ったり、免許証のデータをスキャナで読み込んで、そのデータに基づいて反則切符を発行する。
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
しかしながら、従来の技術では、通話だけ、違反者リストの検索だけ、あるいは違反切符の発行だけを行う機能を有するだけであったため、相互の処理を関連付けて継続的に行う行うことが出来なかった。このため、職務を遂行する上で、作業が重複したり、あるいは徒に多くの労力を消費したりする問題があった。
【０００５】
本発明は、上記の問題点を解決することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
請求項１の発明の道案内に関するデータ及び地図の表示装置は、通信回線に接続され、案内先に関する案内先データの記録、受信、送信、及び所定地域範囲の案内先に関する案内先データの統合管理を行うホストシステムと、ＧＰＳ衛星からの電波を受信して、現在位置の座標を算出するＧＰＳユニットと、上記ＧＰＳユニットが算出した現在位置の座標を記憶する現在位置メモリと、上記現在位置メモリに記憶された現在位置の座標に基づいて、地図データを出力するナビゲーションソフトと、道案内を行うための案内先に関する案内先データを格納する道案内データメモリと、道案内に関する道案内処理画面の表示、

及び該道案内処理画面への操作を検出する表示検出面と、上記道案内処理画面に、道案内先名称を入力する画像を表示する道案内先名称の入力画面表示手段と、上記道案内先名称の入力画面表示手段によって入力された道案内先名称、及び上記道案内データメモリに格納されている案内先データに基づいて、上記道案内先名称に関連する案内先データ、及び地図を上記表示検出面に表示する道案内の表示手段と、上記道案内先名称の入力画面表示手段によって入力された道案内先名称に関する案内先データを、上記ホストシステムから受信して、上記道案内データメモリに格納する案内先データの受信手段とを備えることを要旨とする。

【０００７】

これにより、請求項１の発明の道案内に関するデータ及び地図の表示装置は、通信回線に接続されたホストシステムによって、案内先に関する案内先データの記録、受信、送信、及び所定地域範囲の案内先に関する案内先データの統合管理が行われる。

【０００８】

一方、ＧＰＳユニットによって、ＧＰＳ衛星からの電波が受信され、現在位置の座標が算出されて、現在位置メモリに記憶されると共に、ナビゲーションソフトによって現在位置メモリに記憶された現在位置の座標に基づく地図データが出力される。

【０００９】

又、道案内先名称の入力画面表示手段によって、表示検出面に表示された道案内処理画面に道案内先名称を入力する画像が表示され、その道案内先名称を入力する画像に基づいて、道案内先名称の入力が行われると、道案内の表示手段によって、道案内データメモリに格納されている案内先データに基づいて、その入力した道案内先名称に関連する案内先データ、及び地図が表示検出面に表示されると共に、案内先データの受信手段によって、道案内先名称の入力画面表示手段によって入力された道案内先名称に関する案内先データが、ホストシステムから受信され、道案内データメモリに格納される。

【００１０】

従って、表示検出面から道案内先名称を入力すると、この入力した道案内先名称、及び道案内データメモリに格納されている案内先データに基づいて、道案内先名称に関連する案内先データ、及び地図が表示検出面に表示されるが、この道案内先名称に関連する案内先データの表示の元になる道案内データメモリに格納されている案内先データを、ホストシステムから受信することが可能になる。

【００１１】

請求項２の発明の道案内に関するデータ及び地図の表示装置は、上記表示検出面に、案内先のデータ収集に関する道案内データ収集画面を表示する道案内データ収集画面表示手段と、

上記道案内データ収集画面によって入力された案内先データを上記道案内データメモリに格納する道案内データメモリ格納手段と

を備えることを特徴とする請求項１に記載の道案内に関するデータ及び地図の表示装置を要旨とする。

【００１２】

これにより、請求項２の発明の道案内に関するデータ及び地図の表示装置は、請求項１とほぼ同様の作用に加えて、道案内データ収集画面表示手段が、表示検出面に、案内先のデータ収集に関する道案内データ収集画面を表示し、道案内データメモリ格納手段が道案内データ収集画面によって入力された案内先データを道案内データメモリに格納する。

【００１３】

従って、表示検出面から道案内先名称を入力すると、この入力した道案内先名称、及び道案内データメモリに格納されている案内先データに基づいて、道案内先名称に関連する案内先データ、及び地図が表示検出面に表示されるが、この道案内先名称に関連する案内先データの表示の元になる案内先データを、ホストシステムから受信したり、表示検出面の道案内データ収集画面から入力することが可能になる。

【００１４】

請求項３の発明の道案内に関するデータ及び地図の表示装置は、上記案内先データの受信手段は、上記道案内先名称の入力画面表示手段によって入力された道案内先名称に関する案内先データが上記道案内データメモリに格納されているかの検索を行って、該道案内先名称に関する案内先データが格納されていないとされた場合に、上記ホストシステムから上記道案内先名称に関する案内先データを受信することを特徴とする請求項１、又は請求項２に記載の道案内に関するデータ及び地図の表示装置を要旨とする。

【００１５】

これにより、請求項３の発明の道案内に関するデータ及び地図の表示装置は、請求項１、又は請求項２とほぼ同様の作用に加えて、案内先データの受信手段によって、道案内先名称の入力画面表示手段によって入力された道案内先名称に関する案内先データが道案内データメモリに格納されているかの検索が行われ、道案内先名称に関する案内先データが格納されていないとされた場合には、ホストシステムからその道案内先名称に関する案内先データを受信する。

【００１６】

従って、表示検出面から道案内先名称を入力すると、この入力した道案内先名称、及び道案内データメモリに格納されている案内先データに基づいて、道案内先名称に関連する案内先データ、及び地図が表示検出面に表示されるが、この道案内先名称に関連する案内先データの表示の元になる案内先データが道案内データメモリに格納されていない場合には、この案内先データが、ホストシステムから受信される。

【発明の効果】

【００１７】

本発明の道案内に関するデータ及び地図の表示装置は、表示検出面から道案内先名称が入力されると、この入力した道案内先名称に関連する案内先データを表示検出面に表示することが出来る。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１８】

第１形態の携帯型コミュニケータは、図１に例示するように、携帯コンピュータが無線通信手段の制御指令を出力して、無線通信手段に通信回線を経由しての発信、または受信を行わせる。

【００１９】

または、携帯コンピュータが無線通信手段と、通信回線とを経由して、データを送出する。

あるいは、携帯コンピュータが通信回線と、無線通信手段とを経由して、データを入力する。

【００２０】

しかも、携帯コンピュータは、警察用ソフト記憶手段内に記憶されているコンピュータソフトによって、公安行政、交通指導取締、警察市民サービス、防犯、犯罪取締、または司法手続などの警察処理を実行する。

【００２１】

その上、筐体が無線通信手段と、携帯コンピュータと、警察用ソフト記憶手段とを組み合わせた状態で保持する。

これにより、携帯型コミュニケータは、例えば警察処理をスタンドアロンで実行したり、あるいは警察本部のホストコンピュータとの連携を行って警察処理を実行する。

【００２２】

第２形態の携帯型コミュニケータは、図２に例示するように、携帯コンピュータが無線通信手段の制御指令を出力して、無線通信手段に通信回線を経由しての発信、または受信を行わせる。

【００２３】

または、携帯コンピュータが無線通信手段と、通信回線とを経由して、データを送出する。

あるいは、携帯コンピュータが通信回線と、無線通信手段とを経由して、データを入力する。

【００２４】

また、現在位置出力手段が、現在位置の位置座標データを無線通信手段を介して出力する。

その上、筐体が無線通信手段と、携帯コンピュータと、現在位置出力手段とを組み合わせた状態で保持する。

【００２５】

これにより、携帯型コミュニケータは、例えば現在位置を警察本部や駐在所などへ、連絡する。

第３形態の携帯型コミュニケータの監視装置は、図３に例示するように、座標データ入力手段が携帯型コミュニケータの現在位置を示す位置座標データを通信回線を経由して入力し、現在位置テーブル作成手段がその位置座標データに基づいて、携帯型コミュニケータの現在位置テーブルを作成する。

【００２６】

これにより、携帯型コミュニケータの監視装置は、携帯型コミュニケータの現在位置を示すデータを、活用したり、あるいは外部に提供することができる。

第４形態の携帯型コミュニケータの監視装置は、図４に例示するように、現在位置テーブルに記憶された携帯型コミュニケータの現在位置の座標データに基づいて、現在位置表示手段が携帯型コミュニケータの現在位置を表示する。

【００２７】

これにより、携帯型コミュニケータの監視装置は、携帯型コミュニケータの現在位置を例えば地図上に表示する。

第５形態の携帯型コミュニケータの監視装置は、図５に例示するように、呼出順番決定手段が現在位置テーブルの座標データに基づいて携帯型コミュニケータの呼出順番を決定し、呼出指令出力手段がその順番で携帯型コミュニケータに呼出指令を出力する。

【００２８】

第６形態の携帯型コミュニケータは、図６に例示するように、呼出指令入力手段が携帯型コミュニケータの呼出指令を入力し、呼出信号出力手段がその呼出指令に基づいて、近傍に呼出信号を出力する。

【００２９】

これにより、監視装置から携帯型コミュニケータが呼出を受けると、それがこの携帯型コミュニケータの近傍に知らされる。

第７形態の携帯型コミュニケータは、図７に例示するように、呼出指令入力手段が携帯型コミュニケータの呼出指令を入力し、呼出電波出力手段が携帯型コミュニケータの呼出指令に基づいて、周囲に無線による呼出電波を出力する。

【００３０】

これにより、監視装置から携帯型コミュニケータが呼出を受けると、それがこの携帯型コミュニケータの周囲に無線によって知らされる。

第８形態の呼出装置は、図８に例示するように、呼出電波受信手段が携帯型コミュニケータの周囲に出力された呼出電波を受信し、呼出受信信号出力手段が受信した呼出電波に基づいて、近傍に呼出受信信号を出力する。

【００３１】

これにより、携帯型コミュニケータに呼出があったことを、携帯型コミュニケータの周囲で知ることができる。

【実施例】

【００３２】

次に発明の実施例を説明する。

図９、図１０は、ポリスケータ１の斜視図、図１１は、ＧＰＳユニット３の斜視図、図１２は、プリンタユニット５の斜視図、図１３は、イメージスキャナユニット７の斜視図

、図１４は、アイカメラユニット９の斜視図、図１５は、携帯ポリスケータ１１の斜視図、図１６は、携帯ポリスケータシステム１３の斜視図、図１７は、ポリスケータ１の制御回路１５のブロック図、図１８は、マスタコーラ１７の斜視図、図１９は、マスタコーラ１７のＩＤ番号１７Ａの説明図、図２０は、マスタコーラ１９の説明図、図２１は、無線ＬＡＮユニット２１の斜視図、図２２は、携帯ポリスケータシステム１３の説明図、図２３は、ポリスマップシステム２３の斜視図、図２４は、ポリスマップシステム２３のコンソールテーブル２５の説明図、図２５はポリスマップシステム２３のブロック図、図２６は、ポリスマップシステム２３の説明図である。

【００３３】

ポリスケータ１は、図９、図１０に示すように、ペン入力デバイス１０３と、本体１０５と、無線電話装置１０７とを備えている。ペン入力デバイス１０３は、収容枠１０９に保持されており、収容枠１０９と本体１０５とは、連結部１１１で矢印ＹＹ方向に開閉可能に連結されている。収容枠１０９と、本体１０５との間には、図９に示す開いた状態の保持と、図１０に示す閉じた状態の保持とを行なう図示しない保持機構が設けられている。

【００３４】

収容枠１０９には、マイク１１３と、ディスプレイ１１５と、オンスイッチ１１７と、オフスイッチ１１９とがペン入力デバイス１０３の近傍に取り付けられている。マイク１１３の近傍には、「マイク」レタリング１１３Ａが施されており、オンスイッチ１１７の近傍には「オン」レタリング１１７Ａ、オフスイッチ１１９の近傍には「オフ」レタリング１１９Ａが施されている。オンスイッチ１１７と、オフスイッチ１１９とは、各々２個のスイッチパネル１１７ＡＡ、１１７ＢＢ、１１９ＡＡ、１１９ＢＢを備えている。これらは、収容枠１０９の表面より３ミリメートル凹状態で配設されている。スイッチパネル１１７ＡＡと、１１７ＢＢとは、両方ともほぼ同時に操作された場合にオン信号を出力する。スイッチパネル１１９ＡＡと、１１９ＢＢとは、両方ともほぼ同時に操作された場合に、オフ信号を出力する。これにより、携帯時などに誤って手などが触れることによる誤操作が防止される。この結果、収容枠１０９の表面へのスイッチの取付が可能になる。

【００３５】

無線電話装置１０７と、本体１０５とは、収容箱１２１に収容されている。収容箱１２１には、図９、図１０、図１７に示すように、ＣＰＵ１２３と、音声解析プロセッサ１２４と、ＲＯＭ１２５と、マスタコール１２６と、アンテナ１２６Ａと、ＲＡＭ１２７と、ＥＥＰＲＯＭ１２９と、ペン入力コントローラユニット１３１と、入力インタフェース１３３と、蓄電池１３５と、電源ソケット１３７、１３９と、電話コントローラ１４１と、音声信号発生ユニット１４３と、入出力コントローラ１４５と、イヤー通話コントローラ１４７と、イヤー通話器１４９と、スピーカ１５１と、スピーカオンスイッチ１５２と、ディスプレイコントローラ１５３と、入力ペン１５５と、入力ペン収納孔１５７と、ペン取り出しボタン１５９と、出力インタフェース１６１と、モニタランプ１６３と、モニタスピーカ１６５と、アッテネータ１６６と、電話出力コントローラ１６７と、電話出力コネクタ１６９と、データ入出力コントローラ１７１と、データ入出力コネクタ１７３と、内蔵アプリケーションコネクタ１７４と、カードコネクタ１７５、１７７と、カード収納部１７９と、電源コントローラ１８１と、スピーカ収納部１８３と、イヤー通話器収納具１８５と、足１８７と、無線電話ユニット１８９と、アンテナ１９１と、アンテナ収納部１９３とが備えられている。データ入出力コントローラ１７１には、データバッファ１７１Ａが設けられている。

【００３６】

ＲＡＭ１２７は、車両重量メモリ１２７Ｏと、車両速度メモリ１２７Ｐと、マスタコール設定メモリ１２７Ｑと、状態メモリ１２７Ｒと、設定メモリ１２７Ｓ、車両ナンバ入力メモリ１２７Ｔと、氏名入力メモリ１２７Ｕと、駐車指導メモリ１２７Ｖと、ライセンスＮｏ．メモリ１２７Ｗと、違反日時メモリ１２８Ａと、違反場所メモリ１２８Ｂと、違反処理メモリ１２８Ｃと、車両名メモリ１２８Ｄと、現在位置メモリ１２８Ｇと、追跡車両

メモリ１２８Ｈと、速度違反取締メモリ１２８Ｉと、違反処理メモリ１２８Ｊと、積載重量違反取締メモリ１２８Ｋと、加害者メモリ１２８Ｌと、事故メモリ１２８Ｍと、道案内データメモリ１２８Ｎと、通報メモリ１２８Ｏと、広報メモリ１２８Ｐと、緊急呼出メモリ１２８Ｑと、ポリスマン呼出メモリ１２８Ｒとを備えている。

【００３７】

内蔵アプリケーションコネクタ１７４には、アプリケーションソフトウエアＲＯＭ１９４が差し込まれる。アプリケーションソフトウエアＲＯＭ１９４には、ワードプロセッサソフトと、データベースソフトと、ナビゲーションソフトとが格納されている。これらは、後述する。

【００３８】

カード収納部１７９には、アプリケーションソフトウエアカード１９５、１９７が収納される。アプリケーションソフトウエアカード１９５、１９７は、カードコネクタ１７５、１７７に接続される。電話出力コネクタ１６９には、電話ケーブル１９９が接続される。電話ケーブル１９９は、ファクシミリ装置２０１に接続される。データ入出力コネクタ１７３には、データ出力ケーブル２０３が接続される。データ出力ケーブル２０３は、パーソナルコンピュータ２０５、プリンタ２０７、又はＧＰＳユニット３に接続される。

【００３９】

無線電話装置１０７は、無線電話ユニット１８９と、イヤー通話コントローラ１４７と、入出力コントローラ１４５と、イヤー通話器１４９と、スピーカ１５１と、マイク１１３と、アンテナ１９１とから構成されており、図示しない無線電話網との間で、発信、及び受信を行う機能を有する。電話コントローラ１４１は、ＣＰＵ１２３からの指令に基づいて、入出力コントローラ１４５と、無線電話ユニット１８９とを制御する。音声信号発生ユニット１４３は、ＣＰＵ１２３からの指令に基づいて所定の音声を合成し、入出力コントローラ１４５を経由して無線電話ユニット１８９に出力する。

【００４０】

入力インタフェース１３３は、蓄電池１３５の電圧と消費電流と充電電流とを検出する。電源コントローラ１８１は、オンスイッチ１１７が操作された場合には、ポリスケータ１全体に電源を供給してアクティブ状態にし、オフスイッチ１１９が操作された場合には、ポリスケータ１の待機系に電源を供給して、待機状態にする。

【００４１】

ペン入力デバイス１０３は、液晶ディスプレイ１０３Ａと、センサ層１０３Ｂとを備えている。液晶ディスプレイ１０３Ａは、ペン入力コントローラユニット１３１と接続されており、表示面１０３Ｃに所定の画像データを表示する。センサ層１０３Ｂは、ペン入力コントローラユニット１３１に接続されており、液晶ディスプレイ１０３Ａの下に配設されて、入力ペン１５５のペン先１５５Ａの位置を検出する。入力ペン１５５は、ペン先１５５Ａの近傍に図示しないコイルが設けられている。入力ペン１５５は、クリック／ドラッグ用のボタン１５５Ｂを備えている。ペン入力デバイス１０３と、入力ペン１５５とは、周知の電磁授受方式によって、ペン入力での位置を検出する。ペン入力デバイス１０３は、ＲＯＭ１２５内に格納されているペン入力デバイスによって、キーボードを用いることなく文字入力の機能と、ポインティングデバイスの機能とを有する。

【００４２】

スピーカ１５１は、図９に示すように、スピーカ本体１５１Ａと、支持部材１５１Ｂと、連結部材１５１Ｃとを備えている。スピーカ本体１５１Ａと、支持部材１５１Ｂとは、連結部材１５１Ｃによって矢印ＹＡ、ＹＢ方向に回動可能に連結されている。スピーカ本体１５１Ａと、支持部材１５１Ｂとは、矢印ＹＣ方向に押されることによって、スピーカ収納部１８３に収納される。また、スピーカ１５１は、スピーカオンスイッチ１５２に接続されており、矢印ＹＤ方向に引き出されると、「オフ」状態から「オン」状態に切り替わる。支持部材１５１Ｂは、図示しない排出機構に連結されており収納状態で、「押」レタリング部１５１Ｄを矢印ＹＣ方向に押し込むと、スピーカ本体１５１Ａを使用位置まで飛び出させる。図示しない排出機構には、スピーカオンスイッチ１５２の図示しない操作

リンクが取り付けられている。
【００４３】
イヤー通話器１４９は、使用しない場合には、イヤー通話器収納具１８５に収納されている。また、使用する場合には、引き出されて使用される。これは、使用後、指掛け孔１８５Ｂに指を掛けて、矢印１８５Ａに従ってイヤー通話器収納具１８５を回動すると、収納される。
【００４４】
アンテナ１９１は、通常、アンテナ収納部１９３に収納されている。また、送受信状態を向上させる場合には、引き出して用いる。このため、矢印ＹＥ、ＹＦ方向の移動自由度と、矢印ＹＨ、ＹＧ方向への回動性とを備えている。
【００４５】
入力ペン１５５は、図１０に示すように、使用しない場合は、入力ペン収納孔１５７内に格納されている。ペン取り出しボタン１５９は、押し込まれると、入力ペン１５５を飛び出させる図示しない排出機構に連結されている。
【００４６】
ＲＯＭ１２５は、制御プログラムや変数テーブルを格納している。ＥＥＰＲＯＭ１２９は、設定値や指定値などを保持する。
電源ソケット１３９と、データ入出力コネクタ１７３と、電話出力コネクタ１６９とは、雌コネクタユニット２１７とを構成する。雌コネクタユニット２１７は、所定の標準規格に基づいて、構成されている。
【００４７】
ＧＰＳユニット３は、図１１に示すように、周知の構成としてのアンテナ２１１と、座標演算装置２１３と、雄コネクタユニット２１５と、雌コネクタユニット２１７と、表示装置２１９と、操作装置２２１とを備えている。座標演算装置２１３は、アンテナ２１１を介して受信したＮＡＶＳＴＡＲ　ＧＰＳ（navigation satellite time and ranging positioning system）からのデータに基づいて、現在位置の位置座標ＮＥと、高度Ｈとを求め、雄コネクタユニット２１５と、雌コネクタユニット２１７とを経由して、外部の各種機器に現在位置データＮＥＨを出力する。雄コネクタユニット２１５は、雌コネクタユニット２１７と組み合わされて用いられるものであって、電源プラグ２２５と、データ入出力コネクタ２２７と、電話出力コネクタ２２９とから構成されている。電源プラグ２２５は、電源ソケット１３９との間で、電源の供給、または需給を行う。データ入出力コネクタ２２７は、データ入出力コネクタ１７３との間で、データの供給、または需給を行う。電話出力コネクタ２２９は、電話出力コネクタ１６９との間で、電話データの供給、または需給を行う。
ＧＰＳユニット３は、図１５に示すように、ポリスケータ１と連結され、ポリスケータ１に、現在位置データＮＥＨを供給する。
【００４８】
プリンタユニット５は、図１２に示すように、プリンタ本体２３１と、データ入出力コネクタ２３３とを備えている。データ入出力コネクタ２３３は、接続コード２３５によって、プリンタ本体２３１と接続されている。データ入出力コネクタ２３３は、コネクタ収納孔２３１Ａに、挿入されて、プリンタ本体２３１に保持されている。接続コード２３５は、コード収納溝２３１Ｂに挿入されている。これらは、図１６に示すように、引き出されて、使用される。プリンタ本体２３１は、肩紐２３７と、用紙排出口２３９と、上蓋２４１と、下蓋２４３と、ヒンジ２４５と、指掛かり２４７と、図示しない印字機構と、制御装置と、用紙送り機構とを備えている。
【００４９】
プリンタユニット５は、データ入出力コネクタ２３３がデータ入出力コネクタ１７３に接続されて使用される。プリンタユニット５は、ポリスケータ１からの印字信号に基づいて、印字を行う。
【００５０】

イメージスキャナユニット７は、図１３に示すように、本体２５１と、ゴム蓋２５３とから構成されている。本体２５１は、スキャン面２５５と、データ入出力コネクタ２５６と、接続コード２５７と、蓋止め孔２６３と、肩掛け紐２６９とを備えている。データ入出力コネクタ２５６は、コネクタ収納孔２５９に挿入されている。接続コード２５７は、コード収納孔２６１に挿入されている。

【００５１】

ゴム蓋２５３は、一端がヒンジ２６５によって本体２５１に取り付けられるとともに、他端に蓋止め２６７を備えている。蓋止め２６７は、蓋止め孔２６３に挿入され、ゴム蓋２５３をスキャン面２５５の上面に固定する。

【００５２】

イメージスキャナユニット７は、データ入出力コネクタ２５６がデータ入出力コネクタ１７３に接続されて使用される。イメージスキャナユニット７は、図示しない画像検出機構と、制御装置とを備え、スキャン面２５５上に載せられた指、ライセンスペーパやその他の品物の画像を検出して、ポリスケータ１にデータを出力する。

【００５３】

アイカメラユニット９は、図１４に示すように、データ入出力コネクタ２７１と、基台２７３と、ロッド２７５と、人工網膜ユニット２７７と、レンズ２７９と、上部雲台２８１と、下部雲台２８３とを備えている。基台２７３は、図示しない制御装置を備え、人工網膜ユニット２７７が検出した画像を、そのまま量子化して、あるいは輪郭を抽出したり、特徴を抽出したり、パターンマッチングで文字データを抽出したりして、ポリスケータ１に出力する。アイカメラユニット９は、図１６に示すように、雌コネクタユニット２１７に接続されて、使用される。

携帯ポリスケータ１１は、図１５に示すように、ポリスケータ１と、ＧＰＳユニット３と、携帯ケース２９１とを備えている。ポリスケータ１と、ＧＰＳユニット３とは、雄コネクタユニット２１５と、雌コネクタユニット２１７とが連結状態である。

【００５４】

携帯ケース２９１は、ポリスケータ１の操作用開口２９３と、ＧＰＳユニット３の操作用開口２９５と、雄コネクタユニット２１５の結合用開口２９７と、入力ペン１５５のホルダ２９９と、吊りベルト３０１とを備えている。

【００５５】

携帯ポリスケータ１１は、ポリスケータ１と、ＧＰＳユニット３とを一体で携帯する場合に用いられる。

携帯ポリスケータシステム１３は、図１６に示すように、携帯ポリスケータ１１と、アイカメラユニット９と、プリンタユニット５と、イメージスキャナユニット７とから構成されている。携帯ポリスケータシステム１３は、警察官が職務遂行上必要とされる装置ユニットを一式化したものである。

【００５６】

マスタコーラ１７は、図１８に示すように、衿章本体３１１と、ビス３１３と、階級マーク３１５、３１７とを備えている。階級マーク３１５には、スピーカ３２１が取り付けられており、階級マーク３１７には、表示ＬＥＤ３１９が取り付けられている。衿章本体３１１の内部には、マスタコーラ制御装置３２３が内蔵されている。スピーカ３２１の振動板は、衿章本体３１１の外面３１１Ｂに面して設けられている。

【００５７】

マスタコーラ制御装置３２３は、図示しない無線受信装置を内蔵し、受信信号を解読して、その結果を表示ＬＥＤ３１９によって発光表示するとともに、スピーカ３２１によって音響表示する。

【００５８】

マスタコーラ１７は、衿章本体３１１の裏面３１１Ａに、図１９に示すような、識別ナンバー表示３２７が刻印されている。識別ナンバー表示３２７は、ＩＤナンバーの数値がそのまま表示されている。この値は、マスタコーラ１７を特定して呼び出す場合に、用い

られる。
【００５９】
マスタコーラ１９は、図２０に示すように、私服バッチ形に形成されているものであって、図示しないマスタコーラ制御装置と、表示ＬＥＤ３３１と、スピーカ３３３とを備え、マスタコーラ１７とほぼ同様の機能を有する。
【００６０】
無線ＬＡＮユニット２１は、図２１に示すように、ＬＡＮ本体３４１と、雄コネクタユニット２１５と、雌コネクタユニット２１７と、アンテナ３４３とを備えている。無線ＬＡＮユニット２１は、図２２に示す無線ＬＡＮユニット３５１と組み合わされて用いられるものである。無線ＬＡＮユニット３５１については、後述する。ＬＡＮ本体３４１には、トランシーバユニット３４５と、ＬＡＮネットワーク制御ユニット３４７と、ネットワークデータインタフェース３４９とを備えている。トランシーバユニット３４５は、無線ＬＡＮユニット３５１との間で無線通信を行う。ＬＡＮネットワーク制御ユニット３４７は、無線ＬＡＮユニット３５１との間で、ＬＡＮネットワークを構成する。ネットワークデータインタフェース３４９は、ポリスケータ１との間で、データ送受を行う。無線ＬＡＮユニット２１は、図２２に示すように、ポリスケータ１に接続される。
【００６１】
無線ＬＡＮユニット３５１は、図２２に示すように、接続コード３５３と、トランシーバユニット３５５と、ＬＡＮネットワーク制御ユニット３５７と、データインタフェース３５９とを備えている。無線ＬＡＮユニット３５１は、車両速度計測装置３６１や車両重量計測装置３６３に取り付けられる。無線ＬＡＮユニット３５１は、車両速度計測装置３６１から出力された車両速度データＳＳＤや、車両重量計測装置３６３から出力された車両重量データＳＪＤをデータインタフェース３５９が接続コード３５３を介して入力し、このデータを無線ＬＡＮユニット２１を経由して、ポリスケータ１に出力する。ポリスケータ１は、車両速度データＳＳＤと、車両重量データＳＪＤを、違反処理メモリ１２８Ｊに格納する。
【００６２】
車両速度計測装置３６１は、図２２に示すように、ビデオ記録装置３６５と、速度計測レーダ３６７とを備えている。車両速度計測装置３６１は、計測制御装置３６９を備えており、速度計測レーダ３６７の出力信号から車両速度を検出して、無線ＬＡＮユニット３５１に後述する車両速度データＳＳＤを出力する。計測制御装置３６９は、図示しないマイクロコンピュータや集積回路などで構成されている。また、車両速度計測装置３６１は、ビデオ記録装置３６５に速度データを送信するとともに、画像を記録させる。
【００６３】
ビデオ記録装置３６５は、車両の画像と、その車両の速度を記録する。
図２７は、車両速度計測装置データ出力処理ルーチンのフローチャートである。この処理は、計測制御装置３６９によって、所定時間毎に実行される。
【００６４】
起動されると、まず超過速度入力が行われる（Ｓ１０００）。超過速度は、速度計測レーダ３６７の計測値に基づいて算出される。例えば、速度計測レーダ３６７から５０Ｋｍ以上の値が出力された場合に、超過速度として入力する。
【００６５】
次いで、車両速度データＳＳＤを生成する（Ｓ１０１０）。車両速度データＳＳＤとしては、計測時間、指定速度、超過速度、車両速度、計測装置識別番号が生成される。
次に、無線ＬＡＮに車両速度データＳＳＤ出力を行う（Ｓ１０２０）。以後、ポリスケータ１に伝送される。
【００６６】
図２８は、車両重量計測装置データ出力処理ルーチンのフローチャートである。この処理は、車両重量計測装置３６３によって、所定時間毎に起動される。
まず、実計測重量入力が行われる（Ｓ１１００）。実計測重量は、車両重量計３７１の

計測値に基づいて算出される。
【００６７】
次いで、車両重量データＳＪＤ生成を行う（Ｓ１１１０）。車両重量データＳＪＤとしては、計測時間、車両重量、車両重量計測装置識別番号が生成される。　次に、無線ＬＡＮに車両重量データＳＪＤ出力を行う（Ｓ１１２０）。以後、ポリスケータ１に伝送される。
【００６８】
図２９は、無線ＬＡＮデータ入力処理ルーチンのフローチャートである。
この処理は、ポリスケータ１のＣＰＵ１２３によって、所定時間毎に起動される。まず、無線ＬＡＮデータ入力が行われる（Ｓ１２００）。無線ＬＡＮデータ入力では、図２７の車両速度計測装置データ出力と、図２８の車両重量計測装置データ出力とからのデータを入力する。入力したデータは、データバッファ１７１Ａ内に一時的に格納される。
【００６９】
次いで、車両重量データＳＪＤ抽出を行う（Ｓ１２１０）。車両重量データＳＪＤは、データバッファ１７１Ａから入力する。抽出した車両重量データＳＪＤは、車両重量メモリ１２７Ｏに格納する（Ｓ１２２０）。
【００７０】
次に、車両速度データＳＳＤ抽出を行い（Ｓ１２３０）、車両速度メモリ１２７Ｐに格納する（Ｓ１２４０）。
車両重量メモリ１２７Ｏに格納された車両重量データＳＪＤと、車両速度メモリ１２７Ｐに格納された車両速度データＳＳＤとは、後述する処理にて参照される。
【００７１】
車両重量計測装置３６３は、車両重量計３７１に接続されている。車両重量計測装置３６３は、無線ＬＡＮユニット３５１を経由して、車両重量データをポリスケータ１に送信する。
【００７２】
ポリスマップシステム２３は、図２３に示すように、ポリスマップディスプレイ４０１と、ビデオカメラ４０３と、マイク４０４と、コンソールテーブル２５と、ポリス表示４０５とを備えている。
【００７３】
ポリス表示４０５は、ポリスマップシステム２３が管理する警察官を表示するものであって、警察官名称表示４０７と、識別番号表示４０９と、肖像表示４１１とを備えている。
【００７４】
ポリスマップディスプレイ４０１は、装置枠４１３と、表示面４１５と、表示制御装置４１７とを備えている。表示面４１５は、画像を平面表示する。表示制御装置４１７は、画像信号を入力して、表示面４１５に画像を表示させる。
【００７５】
ビデオカメラ４０３は、装置枠４１３の上面板４０３Ａ上に載置されている。ビデオカメラ４０３は、コンソールテーブル２５近傍の画像を撮像して、画像信号を出力する。マイク４０４は、ビデオカメラ４０３の近傍に配設されている。
【００７６】
コンソールテーブル２５は、本体４２１と、足４２３とを備えている。本体４２１の上面４２１Ａには、図２４に示すような選択ボタン４３１と、説明表示４３３とが設けられている。
【００７７】
選択ボタン４３１としては、本署呼出ボタン４３１Ａ、緊急呼出ボタン４３１Ｂ、管轄区域全体表示ボタン４３１Ｃ、ポリスマン近傍図表示ボタン４３１Ｄ、ポリスマン通話ボタン４３１Ｅ、ポリスマップ印刷ボタン４３１Ｆ、数字ボタン４３１Ｇ、実行ボタン４３１Ｈ、訂正ボタン４３１Ｉが配設されている。

【００７８】
説明表示４３３には、選択ボタン４３１を操作することによって、実行される内容が表示されている。
コンソールテーブル２５には、図２５に示す鳥観図表示装置４３５と、派出所制御装置４３７と、マンインタフェース４３９と、ポリスマッププリンタ４４１と、本署制御装置４４３とが備えられている。
【００７９】
マンインタフェース４３９には、選択ボタン４３１と、無線送信装置４５１と、ポリスマッププリンタ４４１と、本署制御装置４４３と、鳥観図表示装置４３５と、派出所制御装置４３７とが接続されている。無線送信装置４５１は、アンテナ４５３を備えており、マンインタフェース４３９から送出されてきたマスタコーラ呼出信号を送信する。ポリスマッププリンタ４４１は、鳥観図表示装置４３５から送られてきた鳥観図を印刷する。ビデオカメラ４０３は、リモコン装置４４２を備えている。リモコン装置４４２は、本署制御装置４４３に接続されている。
【００８０】
本署制御装置４４３には、公衆デジタル通信回線４５５が接続されている。本署制御装置４４３は、マンインタフェース４３９からの指令に基づいて、公衆デジタル通信回線４５５に本署４５７の本署指令装置４５９への発信信号を出力する。本署制御装置４４３は、ビデオカメラ４０３の画像信号と音声信号とを本署指令装置４５９に送信するとともに、本署指令装置４５９からの音声信号と、画像信号と、リモコン信号とを受信して、ビデオカメラ４０３と、リモコン装置４４２とに出力する。
【００８１】
鳥観図表示装置４３５は、鳥観図データベースを備えており、ポリスマップディスプレイ４０１に鳥観図データを出力する。派出所制御装置４３７は、公衆通信回線４６１と、鳥観図表示装置４３５と、マンインタフェース４３９とに接続されている。派出所制御装置４３７は、マンインタフェース４３９からの信号に基づいて、鳥観図表示装置４３５に制御信号を出力するとともに、公衆通信回線４６１への発信を行う。派出所制御装置４３７は、入力メモリ４３７Ａと、ポリスマン位置メモリ４３７Ｂと、帰所時間テーブル４３７ＴＡと、鳥観図テーブル４３７ＴＡとを備えている。
【００８２】
ポリスマップシステム２３は、図２６に示すように、派出所４６９に配設されており、電話交換局４７１を経由して、本署４５７に有線で接続されるとともに、無線電話局４７３を介して携帯ポリスケータ１１に無線で接続される。本署４５７は、通信幹線４７５を経由して、ホストシステム４５８に接続されている。ホストシステム４５８は、所定地域範囲のデータを統合管理する。電話交換局４７１相互は、通信幹線４７５で接続されている。無線電話局４７３は、電話交換局４７１に併設されており、無線電話網４７６を構成している。
また、携帯ポリスケータ１１は、地球の衛星軌道上のＧＰＳ衛星４７７からの電波を受信して、現在位置の座標ＮＥと高度Ｈとを算出している。算出されたデータは、現在位置メモリ１２８Ｇに格納される。
【００８３】
図３０は、ポリスケータメニュー画面の説明図、図３１は、ポリスケータメニュー画面の説明図、図３２は、ポリスケータ制御処理ルーチンのフローチャート、図３３は、交通機動隊処理ルーチンのフローチャート、図３４は、交通機動隊メニューの説明図、図３５は、交機通常処理ルーチンのフローチャート、図３６は、交機通常メニューの説明図、図３７は、指導処理ルーチンのフローチャート、図３８は、指導処理メニューの説明図、図３９は、車両ナンバ入力処理ルーチンのフローチャート、図４０は、車両ナンバ入力画面の説明図、図４１は、氏名入力処理ルーチンのフローチャート、図４２は、氏名入力画面の説明図、図４３は、指導内容選択処理ルーチンのフローチャート、図４４は、指導内容選択画面の説明図、図４５は駐車指導処理ルーチンのフローチャート、図４６は、駐車指

導画面の説明図、図４７は、取締処理ルーチンのフローチャート、図４８は、取締メニューの説明図、図４９は、氏名入力（ライセンス入力）処理ルーチンのフローチャート、図５０は、氏名入力（ライセンス入力）メニューの説明図、図５１は、取締内容選択処理ルーチンのフローチャート、図５２は、取締内容選択画面の説明図、図５３は、駐車停車方法違反処理ルーチンのフローチャート、図５４は、駐車、停車違反処理画面の説明図、図５５は、追跡車両データ入力処理ルーチンのフローチャート、図５６は、追跡車両データ入力画面の説明図、図５７は、広域手配処理ルーチンのフローチャート、図５８は、広域手配画面の説明図、図５９は、データ収集処理ルーチンのフローチャート、図６０は、追跡車両データ入力画面の説明図、図６１は、指導取締処理ルーチンのフローチャート、図６２は、指導取締メニューの説明図、図６３は、速度違反取締処理ルーチンのフローチャート、図６４は、速度違反取締画面の説明図、図６５は、速度違反処理中画面の説明図、図６６は、積載重量違反取締処理ルーチンのフローチャート、図６７は、積載重量違反処理中画面の説明図、図６８は、積載重量違反処理中画面の説明図、図６９は、事故処理処理ルーチンのフローチャート、図７０は、事故処理メニューの説明図、図７１は、加害者逃走処理ルーチンのフローチャート、図７２は、加害者逃走画面の説明図、図７３は、事故処理ルーチンのフローチャート、図７４は、事故処理メニューの説明図である。

【００８４】

図３０～図７４におけるフローチャートは、制御回路１５によって処理されるものであり、メニューと画面の説明図は、ペン入力デバイス１０３によって処理される内容である。

【００８５】

図３０または図３１に示すポリスケータメニュー画面５０１は、ポリスケータ１のオンスイッチ１１７を操作した場合に表示面１０３Ｃに始めに表示されるものである。これは、図３２のポリスケータ制御処理によって、表示される。

【００８６】

ポリスケータメニュー画面５０１は、ポリスケータアクティブ表示５０３と、登録ＩＤ表示５０５と、ＩＤナンバー表示５０７と、モード表示５０９と、外部装置表示５１１と、登録アプリケーションソフト表示５１３とを備えている。

【００８７】

ポリスケータアクティブ表示５０３は、ポリスケータ１が作動していることを表示する。ＩＤナンバー表示５０７は、マスタコーラ１７の識別ナンバー表示３２７の値を表示するものである。モード表示５０９は、ポリスケータ１の作動モード状態を表示する。モード表示５０９には、ここでは図３０に示す「交番、派出所モード」表示５０９Ａと、図３１に示す「交通機動隊モード」表示５０９Ｂとがある。

【００８８】

外部装置表示５１１は、装置名称表示５１１Ａと、状態表示５１１Ｂとからなっており、装置名称表示５１１Ａには、ここでは「ＧＰＳ、アイカメラ、プリンタ、スキャナ、無線ＬＡＮユニット」がある。状態表示５１１Ｂは、ポリスケータ１の状態に応じて、「作動」、「ー」、「停止」等が表示される。

【００８９】

登録アプリケーションソフト表示５１３は、モード表示５０９に表示されるアプリケーションソフトを選択するためのものである。ここでは、交通機動隊メニュー表示５１３Ａと、交番、派出所メニュー表示５１３Ｂとが表示されている。　図３２に示すポリスケータ制御は、オンスイッチ１１７が操作された場合に起動される。まず、現況調査が行われる（Ｓ１３００）。現況調査としては、登録ＩＤナンバーの値と、現在モードと、外部装置の設定と稼働状態と、登録アプリケーションとが行われる。登録ＩＤナンバーの値は、マスタコール設定メモリ１２７Ｑから読み込む。現在モードは、状態メモリ１２７Ｒから入力する。外部装置の設定は、設定メモリ１２７Ｓから入力する。外部装置の稼働状態は、状態メモリ１２７Ｒから入力する。登録アプリケーションは、設定メモリ１２７Ｓから入力する。

【００９０】
現況調査の後、例えば、図３０や図３１に示すような現況表示（ポリスケータメニュー）を行う（Ｓ１３１０）。
次いで、判断を行う（Ｓ１３２０）。判断では、交通機動隊メニューが選択されたか、あるいは交番、派出所メニューが選択されたかを選択する。交通機動隊メニューが選択されたとの判断は、入力ペン１５５によって、交通機動隊メニュー表示５１３Ａが選択された場合に行われる。交番、派出所メニューが選択されたとの判断は、交番、派出所メニュー表示５１３Ｂが選択された場合に行われる。
【００９１】
判断で、交番、派出所メニューが選択されたとされた場合には、次に後述する交番、派出所処理が行われる（Ｓ１３３０）。一方、交通機動隊メニューが選択されたと判断された場合には、次に後述する交通機動隊処理が行われる（Ｓ１３４０）。
【００９２】
交通機動隊処理は、図３３に示すように、まず交通機動隊メニューを表示する。交通機動隊メニュー５２０は、図３４に示すように、交通機動隊メニュー表示５２３と、通常表示５２５と、指導取締表示５２７と、事故処理表示５２９とを備えている。
【００９３】
交通機動隊メニューの表示後、次に判断を行う（Ｓ１４１０）。判断では、通常が選択されたか、指導取締が選択されたか、あるいは事故処理が選択されたかを判断する。ここで、通常が選択された場合には、次に後述する交通通常処理を実行して（Ｓ１４２０）、本ルーチンを一旦終了する。指導取締が選択された場合には、次に交機指導取締処理を実行し（Ｓ１４３０）、事故処理が選択された場合には、次に交機事故処理を実行して（Ｓ１４４０）、本ルーチンを一旦終了する。
【００９４】
Ｓ１４２０の交機通常処理が起動されると、図３５に示すように、まず交機通常メニュー表示が行われる（Ｓ１５００）。この交機通常メニュー５３１は、図３６に示すように、指導表示５３３と、取締表示５３５と、追跡表示５３７と、ブロック手配表示５３９と、広域手配表示５４１と、データ収集表示５４３とを備えている。
【００９５】
交機通常メニュー表示の後、次に判断が行われ（Ｓ１５１０）、交機通常メニュー５３１の選択内容を判断する。ここで、指導表示５３３が選択された場合には、次に指導処理が実行されて（Ｓ１５２０）、本ルーチンを一旦終了する。また、取締表示５３５が選択された場合には、取締処理が実行され（Ｓ１５３０）、追跡表示５３７が選択された場合には、追跡処理が実行され（Ｓ１５４０）、ブロック手配表示５３９選択された場合には、ブロック手配処理が実行され（Ｓ１５５０）、広域手配表示５４１が選択された場合には、広域手配処理が実行され（Ｓ１５６０）、データ収集表示５４３が選択された場合には、データ収集処理が実行される（Ｓ１５７０）。
【００９６】
Ｓ１５２０の指導処理が起動されると、図３７に示すように、まず指導処理メニューが表示される（Ｓ１６００）。指導処理メニュー５５１は、図３８に示すように、車両ナンバ入力表示５５３と、氏名入力表示５５５と、指導内容選択表示５５７と、中止表示５５９とを備えている。
指導処理メニューの表示の後、次に判断が行われる（Ｓ１６１０）。判断では、中止表示５５９が選択された場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、車両ナンバ入力表示５５３が選択された場合には、車両ナンバ入力処理を行って（Ｓ１６２０）、判断に戻る（Ｓ１６１０）。氏名入力表示５５５が選択された場合には、氏名入力処理を行い（Ｓ１６３０）、指導内容選択表示５５７が選択された場合には、指導内容選択処理を行って（Ｓ１６４０）、判断に戻る（Ｓ１６１０）。
【００９７】
Ｓ１６２０の車両ナンバ入力が起動されると、図３９に示すように、まず車両ナンバ入

力画面が表示される（Ｓ１７００）。車両ナンバ入力画面５６１は、図４０に示すように、車両ナンバ入力表示５６３と、車両ナンバ表示欄５６５と、車両ナンバ入力枠５６７と、中止表示５６９とを備えている。車両ナンバ入力枠５６７は、車両ナンバ入力領域５７１と、変換表示５７３と、削除表示５７５と、終了表示５７７とを備えている。

【００９８】

車両ナンバ入力枠５６７は、図示しないペン入力デバイスによって表示されるものであって、入力ペン１５５によるペン入力を行う領域である。ここでは、まず入力ペン１５５のペン先１５５Ａの軌跡を記録し、次いで、この軌跡に基づいて、対応する文字データをパターン認識によって求めるペン入力処理が行われる。

【００９９】

また、変換表示５７３は、車両ナンバ入力枠５６７内に入力された単語を辞書変換する場合に用いるものであり、削除表示５７５は、データを削除するために用いるものであり、終了表示５７７は、ペン入力処理を終了させるために用いるものである。

【０１００】

車両ナンバ入力枠５６７内に入力されたナンバーデータは、車両ナンバ表示欄５６５に表示される。

車両ナンバ入力画面の表示後、判断が行われる（Ｓ１７１０）。ここで、中止表示５６９が選択されたと判断した場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、車両ナンバ入力枠５６７内へのウインドウ入力が行われた場合には、処理を継続し（Ｓ１７２０）、終了表示５７７が選択された場合には、次に車両ナンバ入力メモリ１２７Ｔに格納を行って（Ｓ１７３０）、本ルーチンを一旦終了する。車両ナンバ入力メモリ１２７Ｔの格納では、車両ナンバ表示欄５６５に表示されているデータが車両ナンバ入力メモリ１２７Ｔに格納される。

【０１０１】

Ｓ１６３０の氏名入力処理が起動されると、図４１に示すように、まず氏名入力画面が表示される（Ｓ１８００）。氏名入力画面５８１は、図４２に示すように、氏名入力表示５８３と、氏名表示欄５８５と、氏名入力枠５８７と、中止表示５８９とを備えている。氏名入力枠５８７は、氏名入力領域５９１と、変換表示５９３と、削除表示５９５と、終了表示５９７とを備えている。

【０１０２】

氏名入力枠５８７は、入力ペン１５５によるペン入力を行う領域である。

氏名入力枠５８７内に入力された氏名データは、氏名表示欄５８５に表示される。

氏名入力画面の表示後、判断が行われる（Ｓ１８１０）。ここで、中止表示５８９が選択されたと判断した場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、氏名入力枠５８７内へのウインドウ入力が行われた場合には、処理を継続し（Ｓ１８２０）、終了表示５９７が選択された場合には、次に氏名入力メモリ１２７Ｕに格納を行って（Ｓ１８３０）、本ルーチンを一旦終了する。氏名入力メモリ１２７Ｕの格納では、氏名表示欄５８５に表示されているデータが氏名入力メモリ１２７Ｕに格納される。

【０１０３】

Ｓ１６４０の指導内容選択処理が起動されると、図４３に示すように、まず指導内容選択メニュー画面の表示を行う（Ｓ１９００）。指導内容選択メニュー画面６０１は、図４４に示すように、車両ナンバ表示６０３と、所有者表示６０５と、使用者表示６０７と、車名表示６０９と、車両ナンバ表示欄６１１と、所有者名表示欄６１３と、使用者名表示欄６１５と、車名表示欄６１７と、駐車指導表示６２１と、歩行者保護指導表示６２３と、一時停止違反指導表示６２５とを備えている。車両ナンバ表示欄６１１には、車両ナンバ入力メモリ１２７Ｔの内容が表示される。所有者名表示欄６１３と、使用者名表示欄６１５と、車名表示欄６１７とには、車両ナンバ表示欄６１１に表示された車両ナンバに対応する所有車名と、使用者名と、車名とが表示される。これらのデータは、ホストシステム４５８から供給される。

指導内容選択メニュー画面の表示後、判断が行われる（Ｓ１９１０）。ここで、中止表示

６１９が選択されたと判断した場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、駐車指導表示６２１が選択された場合には、詳細を後述する駐車指導処理を実行して（Ｓ１９２０）、本ルーチンを一旦終了する。歩行者保護指導表示６２３が選択された場合には、詳細な説明を省略する歩行者保護指導処理を実行し（Ｓ１９３０）、一時停止違反指導表示６２５が選択された場合には、詳細な説明を省略する一時停止違反指導処理を実行する（Ｓ１９４０）。

【０１０４】

Ｓ１９２０の駐車指導処理が起動されると、図４５に示すように、まず駐車指導画面表示が行われる（Ｓ２０００）。駐車指導画面６３１は、図４６に示すように、駐車指導表示６３３と、運転者の氏名表示６３５と、警告書面の印刷表示６４１と、警告内容の記憶表示６４３と、警告内容の送信表示６４５と、運転者の氏名表示欄６３７と、不明表示６３９と、中止表示６４７とを備えている。

【０１０５】

運転者の氏名表示欄６３７には、氏名入力メモリ１２７Ｕの内容が表示される。また、氏名入力メモリ１２７Ｕの内容がない場合には、不明表示６３９がハイライト表示される。

【０１０６】

駐車指導画面６３１の表示後、次に判断を行って（Ｓ２０１０）、中止表示６４７が選択されていれば、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、警告書面の印刷表示６４１が選択されていれば、次に警告書面の印刷を実行する（Ｓ２０２０）。警告内容の記憶表示６４３が選択された場合には、次に警告内容の記憶処理を行い（Ｓ２０３０）、警告内容の送信表示６４５が選択された場合には、警告内容の送信処理を行う（Ｓ２０４０）。Ｓ２０２０の警告書面の印刷処理では、車両ナンバ入力メモリ１２７Ｔの内容と、氏名入力メモリ１２７Ｕの内容とに基づいて、図示は省略するが車両名、車両ナンバ、所有者名、駐車違反の時と所のデータ内容と、駐車違反の警告記事とを印刷する。印刷は、プリンタユニット５によって実行する。車両名、所有者名は、車両ナンバに基づいて、ホストシステム４５８から入力する。駐車違反の位置は、ＧＰＳユニット３からの位置座標データＮＥに基づいて、ナビゲーションソフトが算出した地図データを印刷する。警告内容の記憶処理では、警告書面の印刷データを駐車指導メモリ１２７Ｖに格納する。警告内容の送信処理では、駐車指導メモリ１２７Ｖの記憶内容を、ホストシステム４５８に送信する。これにより、ホストシステム４５８は、駐車違反の警告内容を記録し、後日駐車違反の摘発データに活用する。例えば、駐車違反を繰り返す車両のデータを各携帯ポリスケータシステム１３に送信して、重点取締を行わせる。

【０１０７】

Ｓ１９３０の歩行者保護指導処理が起動された場合には、横断歩道上での歩行者保護を怠った運転者への警告状の印刷、記憶、送信や、歩道上の駐車自転車や自動販売機、置き看板などへの警告上の印刷、記憶、送信を実行する。

【０１０８】

Ｓ１９４０の一時停止違反指導が起動された場合には、乗降中の路面電車、横断歩道、踏切、や一時停止が指定されている場所での違反者への警告上の印刷、記憶、送信が行われる。

【０１０９】

図３５の交機通常処理に置いて、Ｓ１５３０の取締処理が起動された場合には、図４７に示すように、まず取締処理メニュー画面が表示される（Ｓ２１００）。取締処理メニュー画面６５１は、図４８に示すように車両ナンバ入力表示６５３と、氏名入力表示（ライセンス入力）６５５と、取締内容選択表示６５７と、中止表示６５９とを備えている。

【０１１０】

取締処理メニュー画面６５１の表示後、次に判断を行う（Ｓ２１１０）。判断で、中止表示６５９が選択された場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、車両ナンバ入力表示６５３が選択された場合には、次に後述する車両ナンバ入力処理を実行し（Ｓ

２１２０）、氏名入力表示（ライセンス入力）６５５が選択された場合には、次に氏名入力（ライセンス入力）処理を実行し（Ｓ２１３０）、取締内容選択表示６５７が選択された場合には、次に取り締まり内容ＪＰ２７選択処理を実行して（Ｓ２１４０）、Ｓ２１１０の判断に戻る。

【０１１１】

Ｓ２１２０の車両ナンバ入力処理が起動された場合には、既述した図３９の車両ナンバ入力処理とほぼ同様の処理が実行される。

Ｓ２１３０の氏名入力（ライセンス入力）処理が起動された場合には、図４９に示すように、まず氏名入力（ライセンス入力）画面を表示する（Ｓ２２００）。

【０１１２】

氏名入力（ライセンス入力）画面６６１は、図５０に示すように、氏名ペン入力表示６６３と、ライセンスＮｏ．ペン入力表示６６５と、ライセンスアイカメラ入力表示６６７と、ライセンススキャナ入力表示６６９と、中止表示６７１とを備えている。

【０１１３】

氏名入力（ライセンス入力）画面６６１の表示後、判断を行って（Ｓ２２１０）、中止表示６７１が選択されたら、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、氏名ペン入力表示６６３が選択されたら、後述する氏名ペン入力処理を実行する（Ｓ２２２０）。ライセンスＮｏ．ペン入力表示６６５が選択されたら、ライセンスＮｏ．ペン入力処理を実行し（Ｓ２２３０）、ライセンスアイカメラ入力表示６６７が選択されたら、ライセンスアイカメラ入力処理を実行し（Ｓ２２４０）、ライセンススキャナ入力表示６６９が選択されたら、ライセンススキャナ入力処理が実行される（Ｓ２２５０）。

【０１１４】

Ｓ２２２０の氏名ペン入力処理では、図示しないペン入力画面が表示され、入力ペン１５５による氏名の入力を行う。入力された氏名は、氏名入力メモリ１２７Ｕに格納する。Ｓ２２３０のライセンスＮｏ．ペン入力処理では、図示しないペン入力画面と、ライセンスＮｏ．のペン入力を求める表示とを行い、入力されたライセンスＮｏ．を入力する。入力されたライセンスＮｏ．は、ライセンスＮｏ．メモリ１２７Ｗに格納する。Ｓ２２４０のライセンスアイカメラ入力では、アイカメラユニット９からライセンスの画像を入力して、ライセンスＮｏ．や氏名を検出して、記憶する。Ｓ２２５０のライセンススキャナ入力では、イメージスキャナユニット７が入力した画像からライセンスＮｏ．や氏名を入力して、記憶する。

【０１１５】

Ｓ２１４０の取締内容選択が起動されると、図５１に示すように、まず取締内容選択画面表示が行われる（Ｓ２３００）。取締内容選択画面６８１は、図５２に示すように、車両ナンバ表示６８３と、車両ナンバ表示欄６８４と、所有者表示６８５と、所有者表示欄６８６と、ライセンス表示６８７と、ライセンス表示欄６８８と、車名表示６８９と、車名表示欄６９０と、選択一覧６９１と、中止表示７０３とを備えている。選択一覧６９１には、ここでは駐車停車方法違反表示６９３と、信号、一時停止、歩行者保護違反表示６９５と、はみ出し禁止、追い越し禁止違反表示６９７と、指示速度、法定速度違反表示６９９と、積載重量違反表示７０１とが設けられている。

【０１１６】

取締内容選択画面６８１の表示後、次に判断を行って（Ｓ２３１０）、中止表示７０３が選択された場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、駐停車方法違反表示６９３が選択された場合には、次に後述する駐停車方法違反処理を行い（Ｓ２３２０）、信号、一時停止、歩行者保護違反表示６９５が選択された場合には、信号、一時停止、歩行者保護違反処理を行い（Ｓ２３３０）、はみ出し禁止、追い越し禁止違反表示６９７が選択された場合には、はみ出し禁止、追い越し禁止違反処理を行い（Ｓ２３４０）、指示速度、法定速度違反表示６９９が選択された場合には、指示速度、法定速度違反処理を行い（Ｓ２３５０）、積載重量違反表示７０１が選択された場合には、積載重量違反処理を行う（Ｓ２３６０）。

【０１１７】
Ｓ２３２０の駐停車方法違反処理が起動された場合には、図５３に示すように、まず駐車違反、停車違反処理画面を表示する（Ｓ２４００）。駐車違反、停車違反処理画面７１１は、図５４に示すように、駐車違反、停車違反処理表示７１３と、違反者氏名表示７１５と、違反者日時表示７１７１と、違反場所表示７１９と、ライセンスナンバ表示７２１と、違反者氏名表示欄７２３と、違反日時表示欄７２５と、違反場所表示欄７２７と、ライセンスナンバ表示欄７２９と、違反処理書面の印刷表示７３１と、違反処理内容の記憶表示７３３と、違反処理内容の送信表示７３５と、中止表示７３７とを備えている。
【０１１８】
違反者氏名表示欄７２３には、氏名入力メモリ１２７Ｕの内容が表示される。ライセンスナンバ表示欄７２９には、ライセンスナンバメモリ１２７Ｗの内容が表示される。
駐車違反、停車違反処理画面７１１の表示後、次に判断を行って（Ｓ２４１０）、中止表示７３７が選択された場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、駐車違反、停車違反処理画面７１１の違反日時表示欄７２５、または違反場所表示欄７２７の何れかが選択された場合には、次に画面入力処理を行う（Ｓ２４１５）。画面入力処理では、図示しないペン入力枠を表示して、違反の日時、または違反の場所の入力を求め、入力されたデータを違反日時表示欄７２５、または違反場所表示欄７２７に表示する。また、違反の日時は、違反日時メモリ１２８Ａに格納し、違反場所は、違反場所メモリ１２８Ｂに格納する。
【０１１９】
違反処理書面の印刷表示７３１が選択された場合には、次に後述する違反処理書面の印刷処理を行い（Ｓ２４２０）、違反処理内容の記憶表示７３３が選択された場合には、違反処理内容の記憶処理を行い（Ｓ２４３０）、違反処理内容の送信表示７３５が選択された場合には、違反処理内容の送信処理を実行する（Ｓ２４４０）。
【０１２０】
Ｓ２４２０の違反処理書面の印刷処理では、まず氏名入力メモリ１２７Ｕの内容と、ライセンスナンバメモリ１２７Ｗの内容とをホストシステム４５８に送信して、住所データ、車両データ、所有者データ、使用者データ、前歴データ、警告データなどを受信する。次いで、違反日時メモリ１２８Ａの内容と、違反場所メモリ１２８Ｂの内容とを読み込む。全てのデータを揃えた段階で、所定の規格に則って、道路交通法の違反処理書面を、プリンタユニット５で印刷する。
【０１２１】
Ｓ２４３０の違反処理内容の記憶処理では、道路交通法の違反処理書面に印刷したデータを違反処理メモリ１２８Ｃに格納する。
Ｓ２４４０の違反処理内容の送信処理で、違反処理メモリ１２８Ｃの内容をホストシステム４５８に送信する。
【０１２２】
信号、一時停止、歩行者保護違反処理（Ｓ２３３０）と、はみ出し禁止、追い越し禁止違反処理（Ｓ２３４０）と、指示速度、法定速度違反処理（Ｓ２３５０）と、積載重量違反処理（Ｓ２３６０）とでは、詳細な説明は省略するが、Ｓ２３２０の駐停車方法違反処理とほぼ同様な印刷、記憶、送信処理が実行される。
【０１２３】
図３５の交機通常処理において、Ｓ１５４０の追跡処理が起動された場合には、まず図５５に示す追跡車両データ入力処理が起動される。この処理では、まず追跡車両データ入力画面が表示される（Ｓ２５００）。
【０１２４】
追跡車両データ入力画面７４１は、図５６に示すように、追跡車両データ入力表示７４３と、車両ナンバ表示７４５と、車両名表示７４７と、車両色表示７４９と、乗車人数表示７５１と、車両ナンバ表示欄７５３と、車両名表示欄７５５と、車両色表示欄７５７と、乗車人数表示欄７５９と、ペン入力枠７６１と、ブロック手配表示７６３と、広域手配

表示７６５と、データ収集表示７６７と、中止表示７６９とを備えている。ペン入力枠７６１は、変換表示７７１と、削除表示７７３と、終了表示７７５と、ペン入力領域７７７とを備えている。

【０１２５】

追跡車両データ入力画面の表示後、次に判断を行う（Ｓ２５１０）。判断では、中止表示７６９が選択された場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、車両ナンバ表示欄７５３が選択されたと判断した場合には、次に後述する車両ナンバ入力処理（Ｓ２５２０）を行って、再び判断処理（Ｓ２５１０）に戻る。車両名表示欄７５５が選択された場合には、車両名入力処理を行い（Ｓ２５３０）、車両色表示欄７５７が選択されたと判断した場合には、車両色入力処理を行い（Ｓ２５４０）、乗車人数表示欄７５９が選択されたと判断した場合には、乗車人数入力処理を行う（Ｓ２５５０）。Ｓ２５２０の車両ナンバ入力処理では、ペン入力枠７６１内に入力された車両ナンバを入力して、車両ナンバ入力メモリ１２７Ｔに格納する。Ｓ２５３０の車両名入力処理では、ペン入力枠７６１内に入力された車両名を車両名メモリ１２８Ｄに格納する。車両色入力処理では（Ｓ２５４０）、ペン入力枠７６１内に入力された車両色を車両色メモリ１２８Ｅに格納する。乗車人数入力処理では（Ｓ２５５０）、ペン入力枠７６１内に入力された乗車人数を、乗車人数メモリ１２８Ｆに格納する。

【０１２６】

Ｓ２５１０の選択で、ブロック手配表示７６３が選択されたと判断した場合には、次に後述するブロック手配処理（Ｓ２５６０）を行って、本ルーチンを一旦終了する。広域手配表示７６５が選択された場合には、広域手配処理を行い（Ｓ２５７０）、データ収集表示７６７が選択された場合には、データ収集処理を行う（Ｓ２５８０）。

【０１２７】

Ｓ２５６０のブロック手配処理では、ブロック手配信号をホストシステム４５８に送信する。ブロック手配信号は、ブロック手配を行う識別コードと、車両ナンバ入力メモリ１２７Ｔのデータと、現在位置メモリ１２８Ｇのデータと、車両名メモリ１２８Ｄのデータと、車両色メモリ１２８Ｅのデータと、乗車人数メモリ１２８Ｆのデータと、ポリスケータ１の識別コードとを備えている。これにより、ホストシステム４５８では、図示しないブロック手配処理が実行され、ブロック手配信号を発したポリスケータ１の現在位置の周辺の他のポリスケータ１に、車両の緊急手配を実行する。

【０１２８】

Ｓ２５７０の広域手配処理が起動されると図５７に示すように、まず追跡車両データ入力処理が行われる（Ｓ２６００）。追跡車両データ入力では、車両ナンバ入力メモリ１２７Ｔのデータと、車両名メモリ１２８Ｄのデータと、車両色メモリ１２８Ｅのデータと、乗車人数メモリ１２８Ｆのデータとを、ホストシステム４５８に送信して、送信データに関する追跡車両データを受信して、追跡車両メモリ１２８Ｈに格納する。追跡車両データとしては、車両名、車両色、車両ナンバ、車体登録ナンバ、所有者住所氏名、使用者住所氏名、車両特徴、前歴が含まれている。

【０１２９】

追跡車両データ入力後、次に広域手配画面を表示する（Ｓ２６１０）。広域手配画面７８１は、図５８に示すように広域手配表示表示７８３と、広域手配表示欄７８５と、中止表示７８７と、終了表示７８９と、車両名表示７９１と、車両名表示欄７９３と、車両色表示７９５と、車両色表示欄７９７と、車両ナンバ表示７９９と、車両ナンバ表示欄８０１と、乗車人数表示８０３と、乗車人数表示欄８０５と、使用者住所表示８０７と、使用者住所表示欄８０９と、使用者名表示８１１と、使用者名表示欄８１３と、車両特徴表示８１５と、車両特徴表示欄８１７と、関連データ表示８１９と、関連データ表示欄８２１と、最新確認位置表示８２３と、最新確認位置表示欄８２５と、現在位置から表示８２７と、現在位置表示欄８２９と、手配車確認表示８３１と、手配車確認表示欄８３３と、データ送信表示８５とを備えている。手配車確認表示欄８３３には、「確認」表示８３３Ａと、「未」表示８３３Ｂとが表示されている。

【０１３０】
各表示欄７９３、７９７、８０１、８０５、８０９、８１３、８１７、８２１８２５は、追跡車両メモリ１２８Ｈのデータに基づいて表示される。現在位置表示欄８２９には、最新確認位置表示欄８２５の表示内容と、現在位置メモリ１２８Ｇの内容との相対位置関係が表示される。手配車確認表示欄８３３の「確認」表示８３３Ａを入力ペン１５５で選択すると、この表示８３３Ａがハイライトにされる。以上の広域手配画面７８１のデータは、追跡車両メモリ１２８Ｈに格納される。
【０１３１】
広域手配画面７８１の表示後、判断が行われる（Ｓ２６２０）。判断で、終了表示７８９、または中止表示７８７が選択された場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、判断処理の状態が所定時間経過する毎に、現在位置入力処理が行われる（Ｓ２６３０）。現在位置入力処理では、現在位置メモリ１２８Ｇの内容が入力され、現在位置表示欄８２９の内容が更新される。
【０１３２】
判断で、「確認」表示８３３Ａが選択されたと判断した場合には、次に手配車確認処理を実行する（Ｓ２６４０）。手配車確認処理では、現在位置メモリ１２８Ｇの内容を最新確認位置表示欄８２５に書き込むとともに、現在位置表示欄８２９の内容を変更する。
【０１３３】
判断に置いて、広域手配表示欄７８５が入力ペン１５５で選択されたと判断されると、図示しないペン入力枠が表示面１０３Ｃ中に表示される。このペン入力枠内に手配の内容を入力すると、その内容が広域手配表示欄７８５に表示される。これは、データ入力処理が実行する（Ｓ２６５０）。例えば、「ひき逃げ」と入力すると、その通り表示される。
【０１３４】
判断に置いて、各表示欄７９３、７９７、８０１、８０５、８０９、８１３、８１７、８２１、８２５が選択されたと判断された場合には、図示しないペン入力枠が表示され、これらの内容が変更可能になる。これらのデータは、追跡車両メモリ１２８Ｈに格納される（Ｓ２６５０）。
【０１３５】
データ入力処理が完了すると、次にデータ送信処理が行われる（Ｓ２６６０）。データ送信処理では、広域手配信号をホストシステム４５８に送信する。広域手配信号は、広域手配を行う識別コードと、追跡車両メモリ１２８Ｈの内容とから構成されている。ホストシステム４５８では、広域手配信号に基づいて、広域手配を行う。広域手配は、広域手配の内容の重大さに基づいて、手配範囲や優先度を決定して、その手配範囲のポリスケータ１に広域手配信号を送信する。
【０１３６】
Ｓ２６２０の判断で、データ送信表示８３５が選択されたと判断した場合には、既述したデータ送信処理を実行する（Ｓ２６６０）。
図５５の追跡車両データ入力処理において、Ｓ２５８０のデータ収集処理が起動されると、図５９に示すように、まず追跡車両データ入力処理が実行される（Ｓ２７００）。追跡車両データ入力処理は、既述したＳ２６００とほぼ同様の処理が行われるものであって、ホストシステム４５８から追跡車両に関する最新データが入力される。
【０１３７】
次いで、データ収集画面の表示が行われる（Ｓ２７１０）。データ収集画面８４１は、図６０に示すように、データ収集表示８４３と、終了表示８４５と、更新表示８４７と、車両ナンバ表示８４９と、氏名表示８５１と、データ表示８５３と、データ内容一覧８５５とを備えている。データ内容一覧８５５は、複数のデータ８５７、８５９を備えている。データ内容一覧８５５には、追跡車両に関するデータが表示されるものであって、ここではデータ８５７のように、住所が表示されたり、データ８５９のように勤務先のデータが表示されたりする。
【０１３８】

データ収集画面の表示後、次に判断を行って（Ｓ２７２０）、終了表示８４５が選択されれば、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、入力の待機状態で有れば、データ収集画面の表示を行い、更新表示８４７が選択されれば、追跡車両データ入力処理（Ｓ２７００）を再度行なう。これにより、適宜、追跡車両の最新データを、ホストシステム４５８から入力することができる。

【０１３９】

従って、犯罪を起こして、逃走している犯罪者の立ち回り先を、速やかに捜索することができる。

以上の図６０までが白バイやパトカーが通常巡回中に遭遇する場合に活用される図３３の交機通常処理（Ｓ１４２０）の説明である。

【０１４０】

次に、検問所などで、指導取締を行う場合に活用される交機指導取締処理を説明する。

図３３のＳ１４３０の交機指導取締所が起動されると、図６１に示すように、まず指導取締メニューが表示される（Ｓ３０００）。指導取締メニュー１００１は、図６２に示すように、指導取締対象選択表示１００３と、中止表示１００５と、指導取締一覧１００７とを備えている。指導取締一覧１００７には、ここでは速度違反取締表示１００９と、積載重量違反取締表示１０１１と、追い越し方法違反取締表示１０１３と、指定方向外進入違反取締表示１０１５とが設けられている。

指導取締メニューの表示後、次に判断を行って（Ｓ３０１０）、中止表示１００５が選択された場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、速度違反取締表示１００９が選択された場合には、次に後述する速度違反取締処理を実行する（Ｓ３０２０）。積載重量違反取締表示１０１１が選択された場合には、積載重量違反取締処理を実行し（Ｓ３０３０）、追い越し方法違反取締表示１０１３が選択された場合には、追い越し方法違反取締処理を実行し（Ｓ３０４０）、指定方向外進入違反取締表示１０１５が選択された場合には、指定方向外進入違反取締処理を実行する（Ｓ３０５０）。

【０１４１】

Ｓ３０２０の速度違反取締処理が起動された場合には、図６３に示すように、まず速度違反取締画面が表示される（Ｓ３１００）。速度違反取締画面１０２１は、図６４に示すように、速度違反取締設定表示１０２３と、中止表示１０２５と、処理表示１０２７と、設定一覧１０２８とを備えている。設定一覧１０２８には、ここでは速度計測位置表示１０２９と、速度計測位置表示欄１０３１と、速度計測装置表示１０３３と、速度計測装置表示欄１０３５と、速度計測方法表示１０３７と、速度計測方法表示欄１０３９と、速度計測者氏名表示１０４１と、速度計測者氏名表示欄１０４３とを備えている。

【０１４２】

速度違反取締画面の表示後、次に判断を行って（Ｓ３１１０）、中止表示１０２５が選択された場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。速度計測位置表示欄１０３１が選択された場合には、次に後述する速度計測位置入力処理を実行して（Ｓ３１２０）、判断処理（Ｓ３１１０）に戻る。速度計測装置表示欄１０３５が選択された場合には、速度計測装置入力処理を実行し（Ｓ３１３０）、速度計測方法表示欄１０３９が選択された場合には、速度計測方法入力処理を実行し（Ｓ３１４０）、速度計測者氏名表示欄１０４３が選択された場合には、速度計測者氏名入力処理が実行される（Ｓ３１５０）。Ｓ３１２０の速度計測位置入力処理では、まず図示しないペン入力枠を表示して、入力された速度計測位置を速度違反取締メモリ１２８Ｉに格納する。速度計測位置は、入力ペン１５５によって、直接住所データを入力するものと、現在位置メモリ１２８Ｇのデータに基づく住所データを入力すものとがある。速度計測装置入力処理（Ｓ３１３０）と、速度計測方法入力処理（Ｓ３１４０）と、速度計測者氏名入力処理（Ｓ３１５０）とは、何れも図示しないペン入力枠によって、データを入力して、速度違反取締メモリ１２８Ｉに格納する。

【０１４３】

Ｓ３１１０の判断で、処理表示１０２７が選択された場合には、次に速度違反処理中画面を表示する（Ｓ３２００）。速度違反処理中画面１０５１は、図６５に示すように、速

度違反処理中表示１０５３と、中止表示１０５５と、終了表示１０５７と、超過速度表示１０５９と、超過速度表示欄１０６１と、違反時刻表示１０６３と、違反時刻表示欄１０６５と、違反車両データ表示１０６７と、違反車両データ表示欄１０６９と、ライセンスデータ入力表示１０７１と、ライセンスデータ入力表示欄１０７３と、違反切符印刷表示１０７５と、印刷実行表示１０７７と、違反処理データ送信表示１０７９と、送信実行表示１０８１とを備えている。

【０１４４】

速度違反処理中画面の表示後、次に判断を行って（Ｓ３２１０）、中止表示１０５５、または終了表示１０５７が選択されれば、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、中止表示１０５５、または終了表示１０５７以外のアクセスが有れば、次の処理が繰り返し行われる。

【０１４５】

まず、違反処理メモリ１２８Ｊに新たな車両速度データＳＳＤが入力されたら、車両速度計測装置データ入力処理が実行される（Ｓ３２２０）。車両速度計測装置データ入力処理では、違反処理メモリ１２８Ｊから車両速度データＳＳＤに基づく、超過速度と、違反時刻とを読み出して、超過速度表示欄１０６１と、違反時刻表示欄１０６５とに表示する。

【０１４６】

また、違反車両データ表示欄１０６９が選択された場合には、次に違反車両データ入力処理が実行され（Ｓ３２３０）、ライセンスデータ入力表示欄１０７３が選択された場合には、ライセンスデータ入力処理が実行され（Ｓ３２４０）、違反切符印刷表示１０７５が選択されれば、違反切符印刷処理が実行され（Ｓ３２５０）、違反処理データ送信表示１０７９が選択されれば、違反処理データ送信処理が実行される（Ｓ３２６０）。

【０１４７】

Ｓ３２３０の違反車両データ入力処理では、図示しないペン入力枠が表示され、違反者の氏名や住所などのデータ入力が行われる。入力された違反車両データは、ホストシステム４５８に送信され、詳細な車両データとなって返送されてくる。車両データは、違反車両データ表示欄１０６９に表示される。

【０１４８】

Ｓ３２４０のライセンスデータ入力処理では、図示しないペン入力枠が表示され、違反者のライセンスナンバの入力が行われる。入力されたライセンスナンバは、ホストシステム４５８に送信され、詳細なライセンスデータとなって返ってくる。ライセンスデータは、ライセンスデータ入力表示欄１０７３に表示される。

【０１４９】

Ｓ３２５０の違反切符印刷処理では、違反処理切符をプリンタユニット５で印刷するとともに、印刷実行表示１０７７をハイライト表示する。

Ｓ３２６０の違反処理データ送信処理では、速度違反処理中画面１０５１内に入力されたデータを、ホストシステム４５８に送信する。ホストシステム４５８では、送信されてきたデータを記録するとともに、行政処分や刑事罰などの手続を進行させる。

【０１５０】

図６１の指導取締処理において、積載重量違反取締処理が起動されると、図６６に示すように、まず積載重量違反取締画面が表示される（Ｓ３３００）。積載重量違反取締画面１０９１は、図６７に示すように、積載重量違反取締設定表示１０９３と、中止表示１０９５と、処理表示１０９７と、設定一覧１０９８とを備えている。設定一覧１０９８には、ここでは重量計測位置表示１０９９と、重量計測位置表示欄１１０１と、重量計測装置表示１１０３と、重量計測装置表示欄１１０５と、重量計測方法表示１１０７と、重量計測方法表示欄１１０９と、重量計測者氏名表示１１１１と、重量計測者氏名表示欄１１１３とを備えている。

【０１５１】

積載重量違反取締画面の表示後、次に判断を行って（Ｓ３３１０）、中止表示１０９５

が選択された場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。重量計測位置表示欄１１０１が選択された場合には、次に後述する積載重量計測位置入力処理を実行して（Ｓ３３２０）、判断処理（Ｓ３３１０）に戻る。重量計測装置表示欄１１０５が選択された場合には、積載重量計測装置入力処理を実行し（Ｓ３３３０）、重量計測方法表示欄１１０９が選択された場合には、積載重量計測方法入力処理を実行し（Ｓ３３４０）、重量計測者氏名表示欄１１１３が選択された場合には、積載重量計測者氏名入力処理が実行される（Ｓ３３５０）。Ｓ３３２０の積載重量計測位置入力処理では、まず図示しないペン入力枠を表示して、入力された積載重量計測位置を積載重量違反取締メモリ１２８Ｋに格納する。積載重量計測位置は、入力ペン１５５によって、直接住所データを入力するものと、現在位置メモリ１２８Ｇのデータに基づく住所データを入力すものとがある。積載重量計測装置入力処理（Ｓ３３３０）と、積載重量計測方法入力処理（Ｓ３３４０）と、積載重量計測者氏名入力処理（Ｓ３３５０）とは、何れも図示しないペン入力枠によって、データを入力して、積載重量違反取締メモリ１２８Ｋに格納する。

【０１５２】

Ｓ３３１０の判断で、処理表示１０９７が選択された場合には、次に積載重量違反処理中画面を表示する（Ｓ３４００）。積載重量違反処理中画面１１２１は、図６８に示すように、積載重量違反処理中表示１１２３と、中止表示１１２５と、終了表示１１２７と、最大積載重量表示１１２８と、最大積載重量表示欄１１２９と、実計測重量表示１１３０と、実計測重量表示欄１１３１と、違反確認時刻表示１１３３と、違反確認時刻表示欄１１３５と、違反車両データ表示１１３７と、違反車両データ表示欄１１３９と、ライセンスデータ入力表示１１４１と、ライセンスデータ入力表示欄１１４３と、違反切符印刷表示１１４５と、印刷実行表示１１４７と、違反処理データ送信表示１１４９と、送信実行表示１１５１とを備えている。

【０１５３】

積載重量違反処理中画面の表示後、次に判断を行って（Ｓ３４１０）、中止表示１１２５、または終了表示１１２７が選択されれば、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、中止表示１１２５、または終了表示１１２７以外のアクセスが有れば、次の処理が繰り返し行われる。

【０１５４】

まず、違反処理メモリ１２８Ｊに新たな車両重量データＳＪＤが入力されたら、車両重量計測装置データ入力処理が実行される（Ｓ３４２０）。車両重量計測装置データ入力処理では、違反処理メモリ１２８Ｊから車両重量データＳＪＤに基づく、実計測重量と、違反確認時刻とを読み出して、実計測重量表示欄１１３１と、違反確認時刻表示欄１１３５とに表示する。

【０１５５】

また、違反車両データ表示欄１１３９が選択された場合には、次に違反車両データ入力処理が実行され（Ｓ３４３０）、ライセンスデータ入力表示欄１１４３が選択された場合には、ライセンスデータ入力処理が実行され（Ｓ３４４０）、違反切符印刷表示１１４５が選択されれば、違反切符印刷処理が実行され（Ｓ３４５０）、違反処理データ送信表示１１４９が選択されれば、違反処理データ送信処理が実行される（Ｓ３４６０）。

【０１５６】

Ｓ３４３０の違反車両データ入力処理では、図示しないペン入力枠が表示され、違反者の氏名や住所などのデータ入力が行われる。入力された違反車両データは、ホストシステム４５８に送信され、詳細な車両データとなって返送されてくる。車両データは、最大積載重量表示欄１１２９と、違反車両データ表示欄１１３９とに表示される。

【０１５７】

Ｓ３４４０のライセンスデータ入力処理では、図示しないペン入力枠が表示され、違反者のライセンスナンバの入力が行われる。入力されたライセンスナンバは、ホストシステム４５８に送信され、詳細なライセンスデータとなって返ってくる。ライセンスデータは、ライセンスデータ入力表示欄１１４３に表示される。

【０１５８】
Ｓ３４５０の違反切符印刷処理では、違反処理切符をプリンタユニット５で印刷するとともに、印刷実行表示１１４７をハイライト表示する。
Ｓ３４６０の違反処理データ送信処理では、積載重量違反処理中画面１１２１内に入力されたデータを、ホストシステム４５８に送信する。ホストシステム４５８では、送信されてきたデータを記録するとともに、行政処分や刑事罰などの手続を進行させる。
【０１５９】
図３３の交通機動隊処理において、Ｓ１４４０の交機事故処理が起動されると、図６９に示すように、まず事故処理メニューが表示される（Ｓ４０００）。事故処理メニュー１５０１は、図７０に示すように、中止表示１５０３と、加害者逃走処理表示１５０５と、加害者不明処理表示１５０７と、当事者不明処理表示１５０９と、当事者データ入力処理表示１５１１とを備えている。
【０１６０】
事故処理メニューの表示後、次に判断が行われ（Ｓ４０１０）、中止表示１５０３が選択されれば、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、加害者逃走処理表示１５０５が選択されれば、後述する加害者逃走処理が実行され（Ｓ４０２０）、加害者不明処理表示１５０７が選択されれば、加害者不明処理が実行され（Ｓ４０３０）、当事者不明処理表示１５０９が選択されれば、当事者不明処理が実行され（Ｓ４０４０）、当事者データ入力処理表示１５１１が選択されれば、当事者データ入力処理が実行される（Ｓ４０５０）。
【０１６１】
Ｓ４０２０の加害者逃走処理が起動された場合には、図７１に示すように、まず加害者逃走画面が表示される（Ｓ４１００）。加害者逃走画面１５２１は、図７２に示すように、中止表示１５２３と、処理形態選択表示１５２５と、ひき逃げ表示１５２７と、ひき逃げ表示欄１５２９と、あて逃げ表示１５３１と、あて逃げ表示欄１５３３と、加害者探索表示１５３５と、加害者探索表示欄１５３７と、加害者に関するデータ入力表示１５３９と、事故に関するデータ入力表示１５４１と、加害者探索依頼表示１５４３と、事故処理メニュー表示１５４５とを備えている。
【０１６２】
加害者逃走画面の表示後、次に判断を行って（Ｓ４１１０）、中止表示１５２３が選択されれば、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、ひき逃げ表示欄１５２９が選択された場合には、後述するひき逃げ処理を実行し（Ｓ４１２０）、あて逃げ表示欄１５３３が選択された場合には、あて逃げ処理を実行し（Ｓ４１３０）、加害者探索表示欄１５３７が選択された場合には、加害者探索処理を実行し（Ｓ４１４０）、加害者に関するデータ入力表示１５３９が選択された場合には、加害者に関するデータ入力処理を実行し（Ｓ４１５０）、事故に関するデータ入力表示１５４１が選択された場合には、事故に関するデータ入力処理が実行され（Ｓ４１６０）、加害者探索依頼表示１５４３が選択された場合には、加害者探索依頼処理が実行され（Ｓ４１７０）、次いでデータ送信処理が実行される（Ｓ４１８０）。
【０１６３】
Ｓ４１２０のひき逃げ処理では、まず図示しないひき逃げ処理画面を表示する。ひき逃げ処理画面には、ひき逃げ事件が発生した場合の初期手続の教示事項が表示されている。例えば、緊急配備、現場保全、被害者救護処理、上部機関への報告等の教示内容が記載されている。Ｓ４１３０のあて逃げ処理もほぼ同様の内容が記載されている。
【０１６４】
Ｓ４１４０の加害者探索処理が起動されると、図示しない加害者探索処理画面が表示される。加害者探索処理画面には、加害者に関する手がかりの入手方法の教示、及び入力画面が表示されている。Ｓ４１５０の加害者に関するデータ入力処理が起動されると、加害者に関するデータの入力画面が表示され、入力されたデータを加害者メモリ１２８Ｌに格納する。

【０１６５】
Ｓ４１６０の事故に関するデータ入力処理が起動されると、図示しない事故に関するデータの入力画面が表示される。ここで事故に関するデータの入力が行われると、そのデータは事故メモリ１２８Ｍに格納される。
【０１６６】
Ｓ４１７０の加害者探索依頼処理が起動されると、Ｓ４１４０の加害者探索処理で入力したデータに基づいて、加害者の探索処理データの編集画面が表示される。また、ここで探索範囲を選択する項目が表示される。
【０１６７】
Ｓ４１７０の処理が完了するとそのデータは、Ｓ４１８０のデータ送信処理によって、ホストシステム４５８に送信される。ホストシステム４５８では、指定された範囲内のポリスケータ１に加害者の探索依頼を送信する。
Ｓ４１１０によって、事故処理（Ｓ４１９０）が選択された場合には、図７３に示すように、まず事故処理メニューが表示される（Ｓ４２００）。事故処理メニュー１５５１は、図７４に示すように、調書作成表示１５５３と、中止表示１５５５と、終了表示１５５７と、事故処理メニュー表示１５５９と、事故の発生位置表示１５６１と、事故の発生位置の表示欄１５６３と、事故の発生時刻表示１５６５と、事故の発生時刻の表示欄１５６７と、当事者の氏名表示１５６９と、当事者の氏名の表示欄１５７１と、現場調書リスト表示１５７３と、現場調書リスト表示欄１５７５とを備えている。
【０１６８】
事故処理メニューの表示後、次に判断を行って（Ｓ４２１０）、中止表示１５５５、または終了表示１５５７が選択された場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、事故の発生位置の表示欄１５６３が選択された場合には、後述する事故の発生位置処理を実行し（Ｓ４２２０）、事故の発生時刻の表示欄１５６７が選択された場合には、事故の発生時刻処理を行い（Ｓ４２３０）、当事者の氏名の表示欄１５７１が選択された場合には、当事者の氏名処理を実行し（Ｓ４２４０）、現場調書リスト表示欄１５７５が選択された場合には、現場調書リスト処理を実行する（Ｓ４２５０）。現場調書リスト処理は、終了と判断されるまで（Ｓ４２６０）、継続される。
【０１６９】
Ｓ４２２０の事故発生位置処理では、図示しない発生位置入力画面が表示される。発生位置入力画面には、現在位置メモリ１２８Ｇの内容に基づく、住所が表示されている。また、住所表示をペン入力によって、訂正、追加するためのペン入力枠が表示されている。入力された住所データは、事故メモリ１２８Ｍに格納される。
【０１７０】
Ｓ４２３０の事故発生時刻処理が起動されると、図示しない事故発生時刻入力画面が表示される。入力された時刻データは、事故メモリ１２８Ｍに格納される。
Ｓ４２４０の当事者の氏名処理が起動されると、図示しない当事者の氏名入力画面が表示される。入力された氏名データは、事故メモリ１２８Ｍに格納される。
【０１７１】
Ｓ４２５０の現場調書リスト処理が起動されると、現場調書入力画面が表示される。この入力画面によって、入力すると、記入内容に漏れが含まれていない現場調書が作成される。入力したデータは、事故メモリ１２８Ｍに格納される。
【０１７２】
Ｓ４２１０の判断で、調書作成が選択されると、次に調書作成処理が実行される（Ｓ４２７０）。調書作成処理では、事故メモリ１２８Ｍの内容に基づいて、現場調書を作成し、プリンタユニット５によって、印刷する。
【０１７３】
以上の事故処理により、事故の調書作成が、漏れなく、かつ簡単に行われる。　図７５は、交番派出所処理ルーチンのフローチャート、図７６は、交番、派出所メニューの説明図、図７７は、市民サービス処理ルーチンのフローチャート、図７８は、市民サービス画

面の説明図、図７９は、許認可処理ルーチンのフローチャート、図８０は、許認可画面の説明図、図８１は、指導取締処理ルーチンのフローチャート、図８２は、指導取締画面の説明図、図８３は、犯罪処理ルーチンのフローチャート、図８４は、犯罪処理画面の説明図、図８５は、事故処理ルーチンのフローチャート、図８６は、事故処理画面の説明図、図８７は、防犯処理フローチャート、図８８は、防犯処理画面の説明図である。これらは、ポリスケータ１によって実行される。

【０１７４】

図３０のポリスケータ入力画面で、交番、派出所メニュー表示５１３Ｂが選択された場合には、図３２のＳ１３３０の交番、派出所処理が実行される。

交番、派出所処理では、図７５に示すように、まず交番派出所メニューが表示される（Ｓ５０００）。

【０１７５】

交番派出所メニュー２００１は、図７６に示すように、中止表示２００３と、交番、派出所メニュー表示２００５と、市民サービス表示２００７と、許認可表示２００９と、指導取締表示２０１１と、犯罪処理表示２０１３と、事故処理表示２０１５と、防犯処理表示２０１７とを備えている。

【０１７６】

交番、派出所メニューの表示後、次に判断を行って（Ｓ５０１０）、中止表示２００３が選択された場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、市民サービス表示２００７が選択された場合には、次に後述する市民サービス処理を実行し（Ｓ５０２０）、許認可表示２００９が選択された場合には、許認可処理を実行し（Ｓ５０３０）、指導取締表示２０１１が選択された場合には、指導取締処理を実行し（Ｓ５０４０）、犯罪処理表示２０１３が選択された場合には、犯罪処理を実行し（Ｓ５０５０）、事故処理表示２０１５が選択された場合には、事故処理を実行し（Ｓ５０６０）、防犯処理表示２０１７が選択された場合には、防犯処理を実行する（Ｓ５０７０）。

【０１７７】

Ｓ５０２０の市民サービス処理が起動された場合には、図７７に示すように、まず市民サービス画面が表示される（Ｓ５１００）。市民サービス画面２０２１は、図７８に示すように、中止表示２０２３と、道案内表示２０２５と、取得物処理表示２０２７と、苦情処理表示２０２９と、道案内データ収集表示２０３１とを備えている。

【０１７８】

市民サービス画面の表示後、次に判断が行われ（Ｓ５１１０）、中止表示２０２３が選択された場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、道案内表示２０２５が選択された場合には、後述する道案内処理を実行し（Ｓ５１２０）、取得物処理表示２０２７が選択された場合には、取得物処理を実行し（Ｓ５１３０）、苦情処理表示２０２９が選択された場合には、苦情処理を実行し（Ｓ５１４０）、道案内データ収集表示２０３１が選択された場合には、道案内データ収集処理を実行する（Ｓ５１５０）。

【０１７９】

Ｓ５１２０の道案内処理では、図示しない道案内処理画面が表示される。道案内処理画面には、道案内先住所や、道案内先名称の入力欄が設けてある。この道案内処理では、道案内先などの名称を入力すると、これに関連するデータや地図が表示面１０３Ｃに表示される。また、選択によりプリンタユニット５に表示内容を印刷する。道案内を行うためのデータは、道案内データメモリ１２８Ｎに予め格納されている。また、道案内データメモリ１２８Ｎに案内先に関するデータが格納されていない場合には、ホストシステム４５８から受信する。

【０１８０】

Ｓ５１３０の取得物処理では、図示しない取得物処理画面を表示し、取得物の届出を処理する。届出のデータは、ホストシステム４５８に送信する。

Ｓ５１４０の苦情処理では、騒音、迷惑行為などの届出を処理する。この苦情処理では、処理内容に応じて、対応官庁の住所や連絡方法が登録されている。また、対応官庁を選

択することにより、電話を接続する処理を行う。

【０１８１】

Ｓ５１５０の道案内データ収集処理では、住民の家族構成、職業、住所などを入力して、道案内データメモリ１２８Ｎに格納する処理を行う。また、重要事項などは、ホストシステム４５８に送信する処理を行う。

【０１８２】

図７５の交番派出所処理において、Ｓ５０３０の許認可処理が起動されると、図７９に示すように、まず許認可画面表示が行われる（Ｓ５２００）。許認可画面２０４１は、図８０に示すように、中止表示２０４３と、許認可項目一覧２０４５とを備えている。許認可項目一覧２０４５には、ここでは道路使用許可表示２０４７と、車両使用許可表示２０４９とが表示されている。

【０１８３】

許認可画面表示の後、次に判断を行って（Ｓ５２１０）、中止表示２０４３が選択されれば、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、道路使用許可表示２０４７が選択されれば、次に後述する道路使用許可処理を実行し（Ｓ５２２０）、車両使用許可表示２０４９が選択されれば、車両使用許可処理を実行する（Ｓ５２３０）。Ｓ５２２０の道路使用許可処理では、工事や催し物などで、道路を専有して使用することの許可を求める届出を受理するための処理が行われる。この処理では、届出の受理作業及び、上部への連絡などの関連作業が実行される。

【０１８４】

Ｓ５２３０の車両使用許可処理では、車幅が特に広い車両や、車両を用途以外の使用目的で使用する許可を求めるための処理が行われる。この処理では、受理、及び上部への連絡などの処理が行われる。

【０１８５】

Ｓ５０４０の指導取締処理が起動された場合には、図８１に示すように、まず指導取締画面が表示される（Ｓ５３００）。指導取締画面２０５１は、図８２に示すように、中止表示２０５３と、指導取締内容一覧２０５５と、駐車違反表示２０５７と、選挙違反表示２０５９と、車庫違反表示２０６１と、道路交通法違反表示２０６３とを備えている。

【０１８６】

指導取締画面の表示後、次に判断が行われ（Ｓ５３１０）、中止表示２０５３が選択された場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、駐車違反表示２０５７が選択された場合には、後述する駐車違反処理を実行し（Ｓ５３２０）、選挙違反表示２０５９が選択された場合には、選挙違反処理を実行し（Ｓ５３３０）、車庫違反表示２０６１が選択された場合には、車庫違反処理を実行し（Ｓ５３４０）、道路交通法違反表示２０６３が選択された場合には、道路交通法違反処理を実行する（Ｓ５３５０）。

【０１８７】

Ｓ５３２０の駐車違反処理では、図示しない駐車違反処理画面が表示される。駐車違反処理画面には、違反車両のナンバの入力と、違反の場所を入力する項目とがある。違反車両のナンバを入力すると、このナンバから分かる範囲の全データがホストシステム４５８から入力される。違反の場所は、現在位置メモリ１２８Ｇの内容に基づく内容が表示される。また、違反処理切符の発行機能と、違反処理切符の発行データをホストシステム４５８に送信する機能を備えている。

【０１８８】

Ｓ５３３０の選挙違反処理では、図示しない選挙違反処理画面を表示し、選挙の適正運用を補佐する。選挙違反処理では、選挙時の注意事項と、選挙違反の事例を表示する機能、及び違反事項の入力機能と、上部への報告送信機能とを備えている。

【０１８９】

Ｓ５３４０の車庫違反処理では、車庫法違反を犯している車両の発見と、違反処理切符の発行処理を行う。車庫法違反を犯している車両の発見では、車庫の登録証のデータを入力して、関連するデータを表示する機能と、現在の駐車位置が客観的に適正な位置である

か否かを判断し、警告する機能とを備えている。

【０１９０】

Ｓ５３５０の道路交通法違反処理では、違反内容を入力して、反則切符を印刷するとともに、反則切符の内容をホストシステム４５８に送信する機能を有する。

例えば、歩行者保護違反、一方通行違反の摘発や放置自転車の警告書の発行等を行う。

【０１９１】

Ｓ５０５０の犯罪処理が起動された場合には、図８３に示すように、まず犯罪処理画面が表示される（Ｓ５４００）。犯罪処理画面２０７１は、図８４に示すように、中止表示２０７３と、処理内容一覧２０７５とを備えている。処理内容一覧２０７５には、通報受理手続表示２０７７と、調書作成表示２０７９と、現場処理表示２０８１と、上部通報表示２０８３とを備えている。

【０１９２】

犯罪処理画面の表示後、次に判断が行われ（Ｓ５４１０）、中止表示２０７３が選択された場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、通報受理手続表示２０７７が選択された場合には、後述する通報受理手続処理を実行し（Ｓ５４２０）、調書作成表示２０７９が選択された場合には、調書作成処理を実行し（Ｓ５４３０）、現場処理表示２０８１が選択された場合には、現場処理を実行し（Ｓ５４４０）、上部通報表示２０８３が選択された場合には、上部通報処理を実行する（Ｓ５４５０）。

【０１９３】

Ｓ５４２０の通報受理手続処理では、図示しない通報受理画面が表示される。通報受理理画面には、通報入力欄が設けられており、通報があった内容を通報メモリ１２８Ｏに格納する。通報入力欄は、犯罪一覧表と、関連事項一覧表との中からの選択入力方式を備えている。犯罪一覧表の中には、空き巣、万引き、置き引きなどの窃盗犯や、強盗、傷害、殺人などが表示される。関連事項一覧表には、地名、日時などの一覧が表示される。通報受理手続では、犯罪の内容、当事者、場所、時間などのデータを入力する。

【０１９４】

Ｓ５４３０の調書作成処理では、まず通報受理メモリ１３８Ｏの内容を読み込んで、通報事項を表示する。次いで、通報事項の編集後、犯罪調書を作成する。犯罪調書は、プリンタユニット５で印刷するとともに、ホストシステム４５８に送信する。

【０１９５】

Ｓ５４４０の現場処理では、犯罪現場で行わなければならないことの教示画面と、データの入力画面とが表示される。例えば、現場の保全方法、聞き込み内容などが表示される。入力されたデータは、通報メモリ１２８Ｏに格納される。

【０１９６】

Ｓ５４５０の上部通報処理では、上部の通報一覧表が表示され、接続実行を行うと、選択された通報先に、データが送信される。あるいは、電話が接続される。例えば、けが人を救護するための消防署への連絡、火災を消化するための消防署への連絡、重大犯罪者を手配するための警察上部への連絡などが行われる。

【０１９７】

Ｓ５０６０の事故処理が起動された場合には、図８５に示すように、まず事故処理画面が表示される（Ｓ５５００）。事故処理画面２０９１は、図８６に示すように、中止表示２０９３と、処理内容一覧２０９５とを備えている。処理内容一覧２０９５には、通報受理手続表示２０９７と、現場処理表示２０９９と、調書作成表示２１０１と、上部通報表示２１０３、消防署通報表示２１０５と、その他通報表示２１０７とを備えている。

【０１９８】

事故処理画面の表示後、次に判断が行われ（Ｓ５５１０）、中止表示２０９３が選択された場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、通報受理手続表示２０９７が選択された場合には、後述する通報受理手続処理を実行し（Ｓ５５２０）、現場処理表示２０９９が選択された場合には、現場処理を実行し（Ｓ５５３０）、調書作成表示２１０１が選択された場合には、調書作成処理を実行し（Ｓ５５４０）、上部通報表示２１０３

が選択された場合には、上部通報処理を実行し（Ｓ５５５０）、消防署通報表示２１０５が選択された場合には、消防署通報処理を実行し（Ｓ５５６０）、その他通報表示２１０７が選択された場合には、その他通報処理を実行する（Ｓ５５７０）。

【０１９９】

Ｓ５５２０の通報受理手続処理では、図示しない通報受理画面が表示される。通報受理理画面には、通報入力欄が設けられており、通報があった内容を通報メモリ１２８Ｏに格納する。通報入力欄は、事故一覧表と、関連事項一覧表との中からの選択入力方式を備えている。事故一覧表の中には、交通事故、火災事故、傷害事故、器物破損事故、動物関連事故などが表示される。関連事項一覧表には、地名、日時などの一覧が表示される。通報受理手続では、事故の内容、当事者、場所、時間などのデータを入力する。

【０２００】

Ｓ５５４０の調書作成処理では、まず通報受理メモリ１３８Ｏの内容を読み込んで、通報事項を表示する。次いで、通報事項の編集後、事故調書を作成する。事故調書は、プリンタユニット５で印刷するとともに、ホストシステム４５８に送信する。

【０２０１】

Ｓ５５３０の現場処理では、事故現場で行わなければならないことの教示画面と、データの入力画面とが表示される。例えば、現場の保全方法、聞き込み内容などが表示される。入力されたデータは、通報メモリ１２８Ｏに格納される。

【０２０２】

Ｓ５５５０の上部通報処理では、上部の通報一覧表が表示され、接続実行を行うと、選択された通報先に、データが送信される。あるいは、電話が接続される。ここでは、事故内容を報告するために、選択された警察の上部に接続される。

【０２０３】

Ｓ５５６０の消防署通報処理では、けが人、火災、災害救助などを緊急的に実行するために、消防署へ速やかに連絡するための処理が行われる。

Ｓ５５７０のその他通報処理では、通報一覧表が表示され、接続実行を行うと、選択された通報先に、データが送信される。あるいは、電話が接続される。例えば、火災、防災、けが関係を通報するための消防署への連絡、動物を保護するための保健所や動物愛護センタ、または動物園、市役所の市民サービス課等に接続される。

【０２０４】

Ｓ５０７０の防犯処理が起動された場合には、図８７に示すように、まず防犯処理画面が表示される（Ｓ５６００）。防犯処理画面２１１１は、図８８に示すように、中止表示２１１３と、処理内容一覧２１１５とを備えている。処理内容一覧２１１５には、地域データ収集表示２１１７と、公報活動表示２１１９とを備えている。

【０２０５】

防犯処理画面の表示後、次に判断が行われ（Ｓ５６１０）、中止表示２１１３が選択された場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、地域データ収集表示２１１７が選択された場合には、後述する地域データ収集処理を実行し（Ｓ５６２０）、公報活動表示２１１９が選択された場合には、公報活動処理を実行する（Ｓ５６３０）。

【０２０６】

Ｓ５６２０の地域データ収集処理では、図示しない地域データ収集画面が表示される。地域データ収集画面には、地域データ入力欄が設けられており、収集した内容を道案内データメモリ１２８Ｎに格納する。

【０２０７】

Ｓ５６３０の公報活動処理では、広報メモリ１２８Ｐの内容が表示される。

広報メモリ１２８Ｐのデータは、ホストシステム４５８によって、適宜更新される。例えば、交通安全期間に広報する内容等が入力される。

【０２０８】

図８９は、ポリスマップ制御処理ルーチンのフローチャート、図９０は、緊急呼出処理ルーチンのフローチャート、図９１は、本署呼出処理ルーチンのフローチャート、図９２

は、ポリスマン通話処理ルーチンのフローチャート、図９３は、管轄区域全体表示処理ルーチンのフローチャート、図９４は、ポリスマン近傍図表示処理ルーチンのフローチャート、図９５は、ポリスマップ印刷処理ルーチンのフローチャート、図９６は、マスタコール処理ルーチンのフローチャート、図９７は、マスタコーラ制御処理ルーチンのフローチャート、図９８は、呼出受信制御処理ルーチンのフローチャート、図９９は、ポリスケータ位置通報処理ルーチンのフローチャート、図１００は、ポリスマン位置把握処理ルーチンのフローチャートである。
図８９に示すポリスマップ制御処理が、派出所制御装置４３７で起動されると、まず判断が行われる（Ｓ６０００）。判断では、コンソールテーブル２５からの入力をモニタする。

【０２０９】
ここで、数字ボタン４３１Ｇ、または訂正ボタン４３１Ｉが押された場合には、数字入力処理を行う（Ｓ６０１０）。入力された数字は、入力メモリ４３７Ａに格納される。
Ｓ６０００の判断で、実行ボタン４３１Ｈが押されたと判断した場合には、次に実行処理を行う（Ｓ６０２０）。実行処理では、後述する各種処理で、実行待ちになっている状態を進行させる。

【０２１０】
Ｓ６０００の判断で、本署呼出ボタン４３１Ａが押されたと判断した場合には、次に後述する本署呼出処理を実行し（Ｓ６０４０）、緊急呼出ボタン４３１Ｂが押されたと判断した場合には、緊急呼出処理を実行し（Ｓ６０３０）、管轄区域全体表示ボタン４３１Ｃが押されたと判断した場合には、管轄区域全体表示処理を実行し（Ｓ６０６０）、ポリスマン近傍図表示ボタン４３１Ｄが押されたと判断した場合には、ポリスマン近傍図表示処理を実行し（Ｓ６０７０）、ポリスマン通話ボタン４３１Ｅが押された場合には、ポリスマン通話処理を実行し（Ｓ６０５０）、ポリスマップ印刷ボタン４３１Ｆが押された場合には、ポリスマップ印刷処理を実行する（Ｓ６０８０）。

【０２１１】
Ｓ６０３０の緊急呼出処理が起動された場合には、図９０に示すように、まずポリスコール緊急呼出信号出力を実行する（Ｓ６１００）。ポリスコール緊急呼出信号出力では、ポリスコール緊急呼出信号ＰＫＹを、マンインタフェース４３９を経由して、無線送信装置４５１に出力する事によって、アンテナ４５３から出力させる。これにより、派出所４６９の周囲にポリスコール緊急呼出信号ＰＫＹが出力される。ポリスコール緊急呼出信号ＰＫＹは、後述するように、マスタコーラ１７、１９によって受信される。

【０２１２】
次に、本署を緊急呼出する（Ｓ６１１０）。本署の緊急呼出は、まず本署緊急呼出信号ＨＫＹを、マンインタフェース４３９を経由して、本署制御装置４４３に出力する。次いで、本署制御装置４４３は、公衆デジタル通信回線４５５を経由して、本署４５７の本署指令装置４５９に緊急呼出を実行する。これらにより、本署制御装置４４３と、本署指令装置４５９とは、公衆デジタル通信回線４５５を経由して、回線オン状態になる。従って、派出所４６９にいる人と、本署４５７にいる人とが、画像と、音声とによって、相互通話を行う状態になる。

【０２１３】
次いで、ポリスマンの位置を入力する（Ｓ６１２０）。ポリスマンの位置は、ポリスマン位置メモリ４３７Ｂから入力する。ポリスマン位置メモリ４３７Ｂのポリスマン位置データは、図９９に後述するポリスケータ位置通報処理によって更新される。

【０２１４】
ポリスマンの位置を入力後、次に戻り着く時間順にソートを行う（Ｓ６１３０）。このソートは、ポリスマンの位置のデータを、帰所時間テーブル４３７ＴＡによって、帰所するまでの時間に変換後、実行する。これにより、帰り着く時間が短い順に、ポリスマンが並べられる。
次に、ポリスマンの緊急呼出発信を行う（Ｓ６１４０）。ポリスマンの緊急呼出発信では

、帰所する時間が短い順に、ポリスマンの緊急呼出信号を出力する。まず、最初のポリスケータ１を公衆通信回線４６１を経由して呼び出し、ポリスマンの緊急呼出信号を出力する。

【０２１５】

次いで、全員発信完了かを判断し（Ｓ６１５０）、全員の発信が完了していなければ、次のポリスマンに緊急呼出信号を出力する。ポリスマンの緊急呼出信号を受信したポリスケータ１では、緊急呼出メモリ１２８Ｑにポリスマンの緊急呼出があったことを書き込む。緊急呼出メモリ１２８Ｑの内容は、後述する図９６のマスタコール処理ルーチン、及び他のルーチンによって、モニタされる。

【０２１６】

Ｓ６０４０の本署呼出処理が起動されると、図９１に示すように、まず本署に呼出信号を送信する（Ｓ６２００）。これは、まず本署呼出信号ＭＫＹを、マンインタフェース４３９を経由して、本署制御装置４４３に出力する。次いで、本署制御装置４４３は、公衆デジタル通信回線４５５を経由して、本署４５７の本署指令装置４５９に本署呼出を実行する。これらにより、本署制御装置４４３と、本署指令装置４５９とは、公衆デジタル通信回線４５５を経由して、回線オン状態になる。

【０２１７】

次いで、応答有りかを判断し（Ｓ６２１０）、応答があったら、画像通信を開始する（Ｓ６２２０）。これにより、派出所４６９にいる人と、本署４５７にいる人とが、画像と、音声とによって、相互通話を行う状態になる。

画像通信は、終了と判断されるまで継続する（Ｓ６２３０）。終了の判断は、本署指令装置４５９からの終了信号による。

【０２１８】

Ｓ６０５０のポリスマン通話処理が起動されると、図９２に示すように、まず判断が行われ（Ｓ６３００）、判断では、コンソールテーブル２５からの入力をモニタする。

ここで、数字ボタン４３１Ｇ、または訂正ボタン４３１Ｉが押された場合には、数字入力処理を行う（Ｓ６０１０）。入力された数字は、入力メモリ４３７Ａに格納される。

【０２１９】

Ｓ６０００の判断で、実行ボタン４３１Ｈが押されたと判断した場合には、次に選択数字のポリスマン呼出処理を行う（Ｓ６３２０）。ポリスマン呼出処理では、まず、入力メモリ４３７Ａに格納されている数字に対応するポリスケータ１を求める。次いで、対応するポリスケータ１を呼び出す。ポリスケータ１の呼出は、公衆通信回線４６１を経由して行う。呼出を受けたポリスケータ１は、図９８に後述する呼出受信制御によって、その内容をポリスマン呼出メモリ１２８Ｒに格納するとともに、呼出に応答する。

【０２２０】

呼出の結果、応答があるか否かを判断し（Ｓ６３３０）、なければ、次に連絡がとれずか否かを判断する（Ｓ６３４０）。連絡が取れずかの判断の結果、連絡が取れずと判断するに至らない場合は、再度応答有りかを判断する（Ｓ６３３０）。また、連絡が取れずの状態が所定時間、例えば２０秒継続した場合には、連絡が取れずの状態であると判断して、次に連絡取れずのアナウンスを行う（Ｓ６３５０）。

【０２２１】

また、応答があった場合には、音声通信開始を行う（Ｓ６３６０）。これにより、公衆通信回線４６１と、無線電話網４７６とを介して、マイク４０４と、ポリスケータ１との間で、音声通信による通話が可能になる。

【０２２２】

音声通信は、終了と判断されるまで行われる（Ｓ６３７０）。終了の判断は、ポリスケータ１からの終了信号に基づいて行われる。

Ｓ６０６０の管轄区域全体表示処理が起動されると、図９３に示すように、まず管轄区域全体図を表示する（Ｓ６４００）。管轄区域全体図は、管轄区域全体図データを鳥観図テーブル４３７ＴＢから読み出して、ポリスマップディスプレイ４０１に表示する。鳥観

図テーブル４３７ＴＢは、管轄区域全体の鳥観図データを、予め記憶するものであって、図示しない鳥観図訂正処理によって、更新される。

【０２２３】

次いで、ポリスマンの位置を入力する（Ｓ６４１０）。ポリスマンの位置は、ポリスマン位置メモリ４３７Ｂから入力する。

次に、ポリスマンを管轄区域全体図中に表示する（Ｓ６４２０）。この処理では、図２３に示すように、識別番号表示４０９の数字を、表示４０９Ａのように、表示面４１５中に表示する。

【０２２４】

ポリスマンの表示は、ブレークが行われるまで、継続される（Ｓ６４３０）。ブレークが行われたとの判断は、ポリスマップディスプレイ４０１に、管轄区域全体図以外の図面を表示する処理が行われた場合に行われる。

【０２２５】

以上の管轄区域全体図表示により、管轄区域の全体の鳥観図が表示されるとともに、ポリスマンが何処にいるかが一目表示される。

Ｓ６０７０のポリスマン近傍図表示処理が起動されると、図９４に示すように、まず判断が行われる（Ｓ６５００）。ここで、数字ボタン４３１Ｇ、または訂正ボタン４３１Ｉが押された場合には、数字入力処理を行う（Ｓ６５１０）。入力された数字は、入力メモリ４３７Ａに格納される。

【０２２６】

Ｓ６５００の判断で、実行ボタン４３１Ｈが押されたと判断した場合には、次に選択数字のポリスマンの位置を検出する（Ｓ６５２０）。ポリスマンの位置は、ポリスマン位置メモリ４３７Ｂから読み込む。

【０２２７】

次いで、検出位置の近傍の地域図を表示する（Ｓ６５３０）。地域図のデータは、鳥観図テーブル４３７ＴＢから入力する。表示は、ポリスマップディスプレイ４０１に行う。例えば、図２３に示すように、地域図２２０１を表示する。

【０２２８】

次に、ポリスマンを地域図２２０１中に表示する（Ｓ６５４０）。これは、識別番号表示４０９の数字を、表示４０９Ａのように、表示面４１５中に表示する。

表示後、ブレーク有りかを判断し（Ｓ６５５０）、ブレークが有るまで、地域図２２０１を表示するとともに、ポリスマンを表示する。

【０２２９】

以上のポリスマン近傍図表示により、所定のポリスマンの現在位置を、詳細な鳥観図とともに表示することができる。

Ｓ６０８０のポリスマップ印刷処理が起動されると、図９５に示すように、まず表示画面のデータを入力する（Ｓ６６００）。次いで、印刷実行を行う（Ｓ６６１０）。これにより、表示面４１５の画像が、ポストマッププリンタ４４１から印刷されて出てくる。

【０２３０】

図９６のマスタコール処理ルーチンは、ポリスケータ１によって、所定時間毎に起動される。まず、マスタコール「オン」かを判断する（Ｓ７０００）。この判断は、マスタコール設定メモリ１２７Ｑの設定内容に基づいて行う。マスタコール設定メモリ１２７Ｑの内容は、図示しない設定処理によって、予め設定される。マスタコールをしようする場合は、マスタコール「オン」を設定し、使用しない場合には、「オフ」を設定する。

【０２３１】

マスタコールが「オン」でない場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、「オン」の場合には、次にポリスマンの緊急呼出入力を行う（Ｓ７０１０）。緊急呼出入力のデータは、緊急呼出メモリ１２８Ｑから入力する。

【０２３２】

緊急呼出の入力の後、これがあるか否かを判断し（Ｓ７０２０）、緊急呼出が有れば、

次にマスタ緊急呼出送信を行う（Ｓ７０３０）。マスタ緊急呼出送信では、ポリスコール緊急呼出信号ＰＫＹを、マスタコール１２６に出力する。マスタコール１２６は、アンテナ１２６Ａを介して、周囲にポリスコール緊急呼出信号ＰＫＹを無線送信する。これにより、ポリスコール１の周囲にポリスコール緊急呼出信号ＰＫＹが出力される。ポリスコール緊急呼出信号ＰＫＹは、後述するように、マスタコーラ１７、１９によって受信される。

【０２３３】

Ｓ７０２０で、ポリスマンの緊急呼出がないとされた場合には、次にポリスマン呼出の入力を行う（Ｓ７０４０）。この入力は、ポリスマン呼出メモリ１２８Ｒから行う。

次に、入力した呼出が登録されたポリスマン呼出か否かを判断し（Ｓ７０５０）、登録されたもので有れば、マスタ呼出送信を行う（Ｓ７０６０）。登録されたものであるかの判断は、マスタコール設定メモリ１２７Ｑの内容に基づいて行う。マスタ呼出では、マスタコーラ１７、１９のＩＤナンバーを含むマスタ呼出信号ＭＹをマスタコール１２６に出力する。マスタコール１２６は、それをアンテナ１２６Ａから送信する。このマスタ呼出信号ＭＹが出力されると、後述するように、それをマスタコーラ１７、１９が受信して、自己のＩＤナンバと一致していれば、呼出信号を音響と、光で出力する。

【０２３４】

図９７のマスタコーラ制御処理ルーチンは、マスタコーラ１７、１９によって所定時間毎に実行される。

まず、ポリスコール緊急呼出信号有りかを判断する（Ｓ７１００）。ポリスコール緊急呼出信号ＰＫＹが有れば、次に緊急呼出音出力を行う（Ｓ７１１０）。緊急呼出音出力では、スピーカ３２１と、表示ＬＥＤ３１９とに緊急呼出信号出力を加える。これにより、マスタコーラ１７、１９の周囲に緊急呼出音と、光とが出力される。

【０２３５】

また、ポリスコール緊急呼出信号がない場合には、次にマスタ呼出がありか否かを判断する（Ｓ７１２０）。マスタ呼出がない場合には、本ルーチンを一旦終了し、マスタ呼出が有れば、次にマスタ呼出音を出力する（Ｓ７１３０）。マスタ呼出の判断では、マスタ呼出信号に含まれているＩＤナンバが、所定のものである場合に、マスタ呼出有りとの判断をおこなう。マスタ呼出音出力では、スピーカ３２１と、表示ＬＥＤ３１９とに呼出音を出力する。

【０２３６】

図９８の呼出受信制御処理ルーチンは、ポリスケータ１によって所定時間毎に実行される。まず呼出有りかを判断する（Ｓ７２００）。呼出有りと判断される場合は、無線電話網４７６から呼出信号が入力された場合である。ここで、呼出なしであると判断された場合には、本ルーチンをそのまま一旦終了する。また、呼出有りと判断された場合には、次に呼出内容の入力を行う（Ｓ７２１０）。次いで、呼出内容の判断を行う（Ｓ７２００）。呼出内容が、緊急呼出で有れば、緊急呼出メモリ１２８Ｑに設定を行い（Ｓ７２３０）、ポリスマン呼出で有れば、ポリスマン呼出メモリ１２８ＲにポリスマンＩＤを設定する（Ｓ７２４０）。何れでもなければ、そのまま一旦終了する。

【０２３７】

図９９のポリスケータ位置通報処理ルーチンは、ポリスケータ１によって所定時間毎に実行される。まず、位置座標と高度とを入力する（Ｓ７３００）。これは、現在位置メモリ１２８Ｇから入力する。次いで、前回の位置から移動したかを判断し（Ｓ７３１０）、移動していなければ、本ルーチンをそのまま一旦終了する。移動していれば、現在位置ＮＥ、高度Ｈをポリスマンとともに、ポリスマップシステム２３に送信する（Ｓ７３２０）。本ルーチンにより、ポリスマップシステム２３は、ポリスマンの位置を常時把握することが出きる。

【０２３８】

図１００のポリスマン位置把握処理ルーチンは、ポリスマップシステム２３によって、所定時間毎に起動される。まず、ポリスケータからの現在位置を受信したかを判断する（

Ｓ７４００）。受信していなければ、本ルーチンをそのまま一旦終了する。受信していれば、次にポリスマンＩＤと現在位置ＮＥ、高度Ｈとを抽出する（Ｓ７４１０）。次いで、抽出データをポリスマン位置メモリ７３７Ｂに格納する（Ｓ７４２０）。これにより、ポリスマップシステム２３では、ポリスマンの現在位置を、リアルタイム表示することができる。

【０２３９】

以上に説明した携帯ポリスケータシステム１３、及びポリスマップシステム２３は、警察官の職務を遂行する上で有用なシステムを提供する。また、派出所のサービス性を向上させる。

【図面の簡単な説明】

【０２４０】

【図１】第１形態の携帯型コミュニケータの基本的構成を例示する構成図である。
【図２】第２形態の携帯型コミュニケータの基本的構成を例示する構成図である。
【図３】第３形態の携帯型コミュニケータの監視装置の基本的構成を例示する構成図である。
【図４】第４形態の携帯型コミュニケータの監視装置の基本的構成を例示する構成図である。
【図５】第５形態の携帯型コミュニケータの監視装置の基本的構成を例示する構成図である。
【図６】第６形態の携帯型コミュニケータの基本的構成を例示する構成図である。
【図７】第７形態の携帯型コミュニケータの基本的構成を例示する構成図である。
【図８】第８形態の呼出装置の基本的構成を例示する構成図である。
【図９】ポリスケータ１の斜視図である。
【図１０】ポリスケータ１の斜視図である。
【図１１】ＧＰＳユニット３の斜視図である。
【図１２】プリンタユニット５の斜視図である。
【図１３】イメージスキャナユニット７の斜視図である。
【図１４】アイカメラユニット９の斜視図である。
【図１５】携帯ポリスケータ１１の斜視図である。
【図１６】携帯ポリスケータシステム１３の斜視図である。
【図１７】ポリスケータ１の制御回路１５のブロック図である。
【図１８】マスタコーラ１７の斜視図である。
【図１９】マスタコーラ１７のＩＤ番号１７Ａの説明図である。
【図２０】マスタコーラ１９の説明図である。
【図２１】無線ＬＡＮユニット２１の斜視図である。
【図２２】携帯ポリスケータシステム１３の説明図である。
【図２３】ポリスマップシステム２３の斜視図である。
【図２４】ポリスマップシステム２３のコンソールテーブル２５の説明図である。
【図２５】ポリスマップシステム２３のブロック図である。
【図２６】ポリスマップシステム２３の説明図である。
【図２７】車両速度計測装置データ出力処理ルーチンのフローチャートである。
【図２８】車両重量計測装置データ出力処理ルーチンのフローチャートである。
【図２９】無線ＬＡＮデータ入力処理ルーチンのフローチャートである。
【図３０】ポリスケータメニュー画面の説明図である。
【図３１】ポリスケータメニュー画面の説明図である。
【図３２】ポリスケータ制御処理ルーチンのフローチャートである。
【図３３】交通機動隊処理ルーチンのフローチャートである。
【図３４】交通機動隊メニューの説明図である。
【図３５】交機通常処理ルーチンのフローチャートである。
【図３６】交機通常メニューの説明図である。

【図３７】指導処理ルーチンのフローチャートである。
【図３８】指導処理メニューの説明図である。
【図３９】車両ナンバ入力処理ルーチンのフローチャートである。
【図４０】車両ナンバ入力画面の説明図である。
【図４１】氏名入力処理ルーチンのフローチャートである。
【図４２】氏名入力画面の説明図である。
【図４３】指導内容選択処理ルーチンのフローチャートである。
【図４４】指導内容選択画面の説明図である。
【図４５】駐車指導処理ルーチンのフローチャートである。
【図４６】駐車指導画面の説明図である。
【図４７】取締処理ルーチンのフローチャートである。
【図４８】取締メニューの説明図である。
【図４９】氏名入力（ライセンス入力）処理ルーチンのフローチャートである。
【図５０】氏名入力（ライセンス入力）メニューの説明図である。
【図５１】取締内容選択処理ルーチンのフローチャートである。
【図５２】取締内容選択画面の説明図である。
【図５３】駐車停車方法違反処理ルーチンのフローチャートである。
【図５４】駐車、停車違反処理画面の説明図である。
【図５５】追跡車両データ入力処理ルーチンのフローチャートである。
【図５６】追跡車両データ入力画面の説明図である。
【図５７】広域手配処理ルーチンのフローチャートである。
【図５８】広域手配画面の説明図である。
【図５９】データ収集処理ルーチンのフローチャートである。
【図６０】追跡車両データ入力画面の説明図である。
【図６１】指導取締処理ルーチンのフローチャートである。
【図６２】指導取締メニューの説明図である。
【図６３】速度違反取締処理ルーチンのフローチャートである。
【図６４】速度違反取締画面の説明図である。
【図６５】速度違反処理中画面の説明図である。
【図６６】積載重量違反取締処理ルーチンのフローチャートである。
【図６７】積載重量違反処理中画面の説明図である。
【図６８】積載重量違反処理中画面の説明図である。
【図６９】事故処理処理ルーチンのフローチャートである。
【図７０】事故処理メニューの説明図である。
【図７１】加害者逃走処理ルーチンのフローチャートである。
【図７２】加害者逃走画面の説明図である。
【図７３】事故処理ルーチンのフローチャートである。
【図７４】事故処理メニューの説明図である。
【図７５】交番派出所処理ルーチンのフローチャートである。
【図７６】交番、派出所メニューの説明図である。
【図７７】市民サービス処理ルーチンのフローチャートである。
【図７８】市民サービス画面の説明図である。
【図７９】許認可処理ルーチンのフローチャートである。
【図８０】許認可画面の説明図である。
【図８１】指導取締処理ルーチンのフローチャートである。
【図８２】指導取締画面の説明図である。
【図８３】犯罪処理ルーチンのフローチャートである。
【図８４】犯罪処理画面の説明図である。
【図８５】事故処理ルーチンのフローチャートである。
【図８６】事故処理画面の説明図である。

【図８７】防犯処理フローチャートである。
【図８８】防犯処理画面の説明図である。
【図８９】ポリスマップ制御処理ルーチンのフローチャートである。
【図９０】緊急呼出処理ルーチンのフローチャートである。
【図９１】本署呼出処理ルーチンのフローチャートである。
【図９２】ポリスマン通話処理ルーチンのフローチャートである。
【図９３】管轄区域全体表示処理ルーチンのフローチャートである。
【図９４】ポリスマン近傍図表示処理ルーチンのフローチャートである。
【図９５】ポリスマップ印刷処理ルーチンのフローチャートである。
【図９６】マスタコール処理ルーチンのフローチャートである。
【図９７】マスタコーラ制御処理ルーチンのフローチャートである。
【図９８】呼出受信制御処理ルーチンのフローチャートである。
【図９９】ポリスケータ位置通報処理ルーチンのフローチャートである。
【図１００】ポリスマン位置把握処理ルーチンのフローチャートである。
【符号の説明】
【０２４１】
１…ポリスケータ
３…ＧＰＳユニット
５…プリンタユニット
７…イメージスキャナユニット
９…アイカメラユニット
１１…携帯ポリスケータ
１３…携帯ポリスケータシステム
１７、１９…マスタコーラ
２１…無線ＬＡＮユニット
２３…ポリスマップシステム
２５…コンソールテーブル
１２６…マスタコール
３５１…無線ＬＡＮユニット
３５７…ＬＡＮネットワーク制御ユニット